

平成31年度（令和元年度） 全国学力・学習状況調査



北九州市環境マスコットキャラクター
ていたん & ブラックていたん
©ていたん & ブラックていたん 北九州市

北九州市教育委員会

目 次

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査 報告書

1. 学力状況調査結果 p1～p11

(1) 平成31年度全国学力・学習状況調査結果について(概況).....	2
(2) 調査結果の経年推移	4
(3) 正答数分布グラフの経年推移.....	6
(4) 調査結果の推移(資料).....	11

2. 各教科の分析 p13～23

(1) 小学校国語.....	14
(2) 小学校算数.....	16
(3) 中学校国語.....	18
(4) 中学校数学.....	20
(5) 中学校英語.....	22

3. 学習状況調査結果・分析 p25～p41

(1) 学習状況調査結果について(概況).....	26
(2) 学習状況調査結果の経年推移	
①学びの育ち.....	27
②心の育ち.....	35
(3) 学力・体力向上アクションプラン第1ステージの成果と第2ステージ における方向性.....	40
(4) 学力に影響を与える要因(資料).....	41

1. 学力状況調査結果



(1) 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果について(概況)

平成31年4月に市立の全小・中学校において全国学力・学習状況調査を実施した。調査の概況は以下のとおりである。

1 実施学年・調査内容

- ◇ 実施学年 市立の全小学校・関係特別支援学校 第6学年(128校)
市立の全中学校・関係特別支援学校 第3学年(63校)
- ◇ 調査内容 ① 教科に関する調査 小学校…国語・算数 中学校…国語・数学・英語
② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 調査集計者数 小学校児童数 7,727人 中学校生徒数 7,016人

3 調査日 平成31年4月18日(木)

結果と、成果・課題

【結果】

平成31年度	小学校国語		小学校算数		中学校国語		中学校数学		中学校英語	
	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率	正答数	正答率
本市平均	9.1 / 14 問	65%	9.0 / 14 問	64%	6.9 / 10 問	69%	8.9 / 16 問	56%	10.6 / 21 問	51%
全国平均	8.9 / 14 問	64%	9.3 / 14 問	67%	7.3 / 10 問	73%	9.6 / 16 問	60%	11.8 / 21 問	56%

※ 結果公表にあたっては、文部科学省の方針に沿って細かい桁における微小な差異は学力面で実質的な違いを示すものではないという考えから、平成28年度より整数値で公表するようにした。

【成果1】 小学校国語で、全国平均を上回った。

小学校 国語 31年度 **102%**

※ 全国平均正答率を100%として比較

特に、「話すこと・聞くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について成果がみられる。

【話すこと・聞くこと】 102% 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 108%

【成果2】 全国平均を上回る学校数が小学校で増加している。

小学校 29年度 46校 → 30年度 52校 → 31年度 **63校**

※ 国語、算数の平均正答率の合計による比較

【成果3】 無解答率が小学校で全国平均以下。中学校国語で改善している。

<全国平均無解答率を100%として比較>

小学校 国語 31年度 **75%** 小学校 算数 31年度 **93%**

<昨年度の無解答率との比較>

中学校 国語 30年度 3.3% → 31年度 **3.1%**
(30年度は、A・B問題を合わせた無解答率)

【成果4】 本市で課題となっていた記述式の問題について正答率の向上がみられる。

中学校 国語 31年度 3(2) 本市正答率 74%  **+23%**
※類題 28年度小国B2(1) 本市正答率 51%

中学校 数学 31年度 6(2) 本市正答率 29%  **+2%**
※類題 28年度中数B3(3) 本市正答率 27%

【成果5】 児童・生徒質問紙の「学びの育ち」「心の育ち」に関する項目が、前年度よりも改善している。

小学校 22項目中**14**項目で改善 中学校 24項目**18**項目で改善

【課題】 以下の教科については、全国平均正答率100%に達していない。

＜小学校＞算数96%　＜中学校＞国語95%　数学93%　英語90%



※ 全国平均正答率を100%として比較

小学校

【算数科】 「数と計算」97% 「量と測定」95% 「図形」96% 「数量関係」96%

○「量と測定」においては、図形の面積の求め方について説明する活動を重視して取り入れてきた。

○しかし、「三角形」「四角形」などを組み合わせた図形の面積の求め方を説明する問題において、全国平均との開きがみられた。そのため、以下のような力の育成が求められる。

- ・図形を合成したり、分解したりして、他の図形としてみる力
- ・面積の求め方を示した式を解釈する際に、式で用いられている数の意味や演算の意味などを、既習の面積公式と結び付けて説明する力

中学校

【国語科】 「話すこと・聞くこと」96% 「書くこと」97% 「読むこと」94% 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」93%

○「読むこと」については、文章の構成や展開を捉えたり、中心的な部分と付加的な部分との関係や事実と意見との関係などの文章の表現の仕方について考えたりする活動を重視して取り入れてきた。

○しかし、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができるかどうかをみる問題において全国平均との開きがみられた。そのため、以下のような力の育成が求められる。

- ・目的意識をもって文章を読み、必要な情報を集め、整理することができる力
- ・新聞や雑誌など様々な媒体に触れ、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読む力

【数学科】 「数と式」93% 「図形」93% 「関数」92% 「資料の活用」92% ※「記述式」の問題90%

○「関数」については、グラフの交点の求め方や、グラフに表された式の求め方など、知識・技能の定着を図る活動を重視して取り入れてきた。

○しかし、関数の式やグラフを用いて答えを求める方法を記述する問題において、全国平均との開きがみられた。そのため、以下のような力の育成が求められる。

- ・生活場面から関数関係にある量を見だし、それをグラフや式に表す力
- ・グラフ、表、式などを用いて答えの「求め方」を説明したり、それに補足・修正したりする力

【英語科】 「聞くこと」94% 「読むこと」93% 「書くこと」84%

○「書くこと」については、語や文法事項を正しく用いながら、短文を書く活動を重視して取り入れてきた。

○しかし、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意して、「まとまりのある文章」を書く問題において、全国平均との開きがみられた。そのため、以下のような力の育成が求められる。

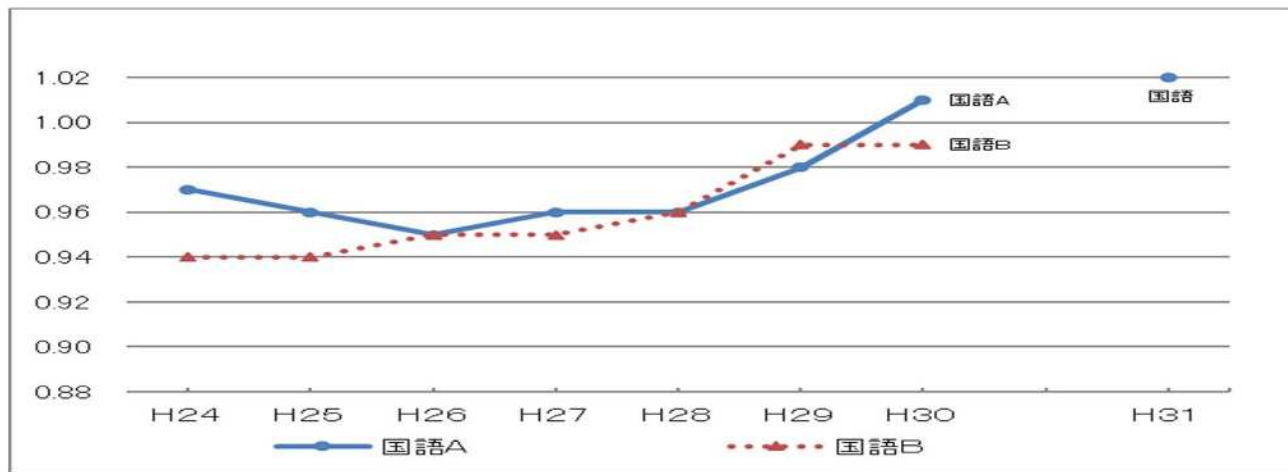
- ・「書く」場面だけでなく、「話す」「聞く」場面でも、コミュニケーションの手段として英語表現を活用する力
- ・文と文のつながりを考えながら、自分の意見を伝えたり、判断した根拠を説明したりする力

(2) 調査結果の経年推移

平成24年度は、抽出調査及び希望調査利用方式で実施された。
本市では全小・中学校で実施。

■ 全国平均正答率に対する割合（平成24年度～平成31年度）

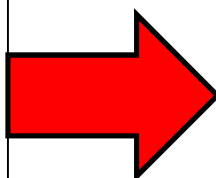
小学校国語



平成30年度問題数

A問題 12問

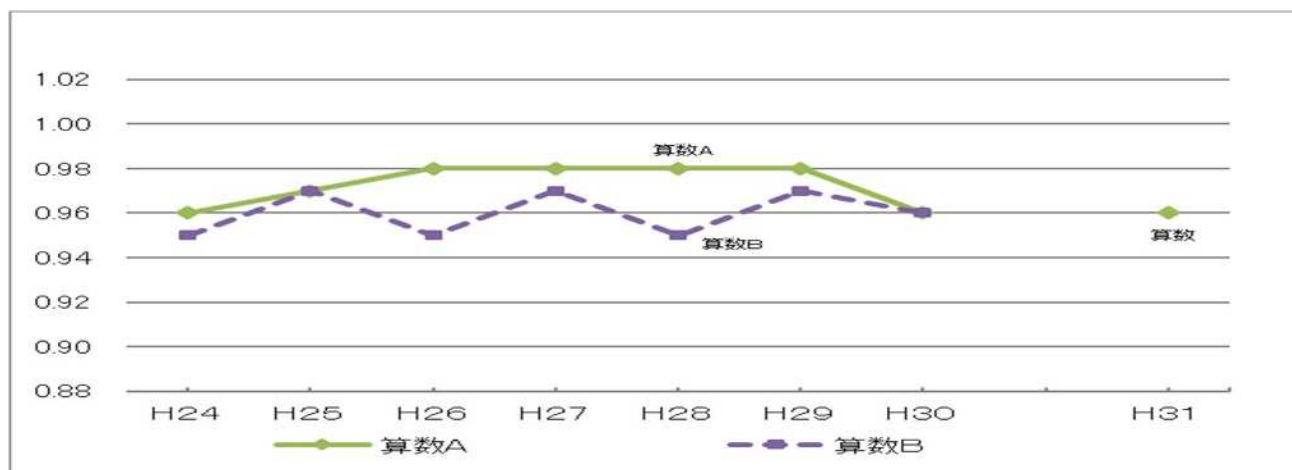
B問題 8問



平成31年度問題数

14問

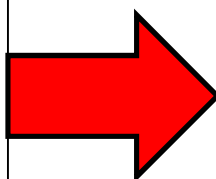
小学校算数



平成30年度問題数

A問題 14問

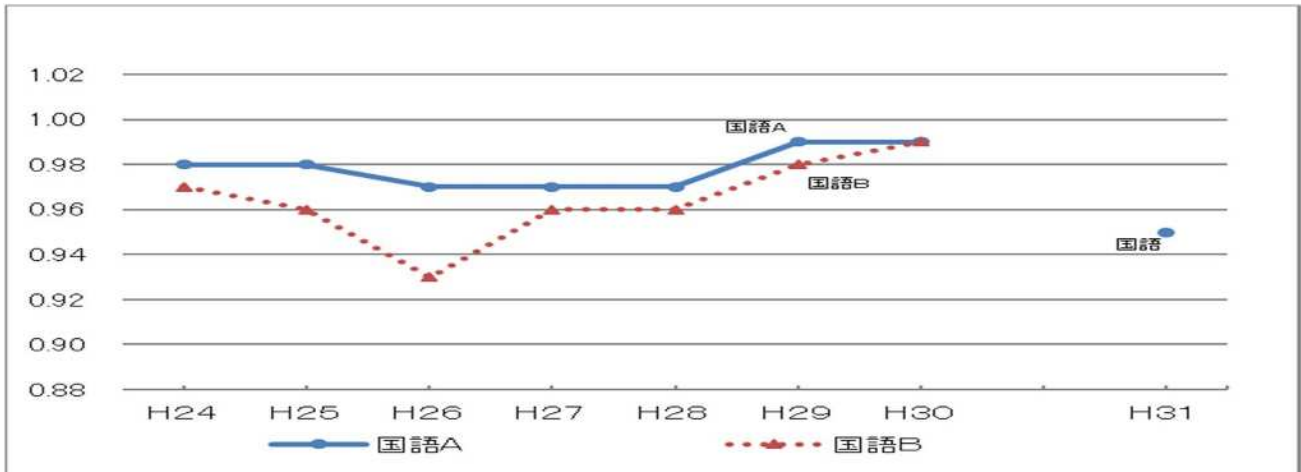
B問題 10問



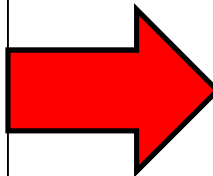
平成31年度問題数

14問

中学校国語

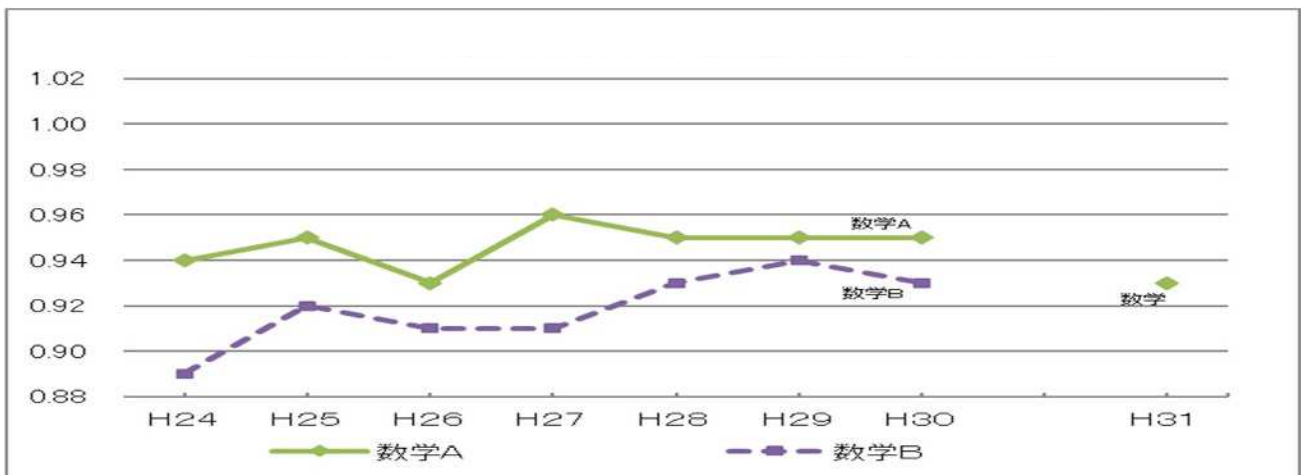


平成30年度問題数
A問題 32問
B問題 9問

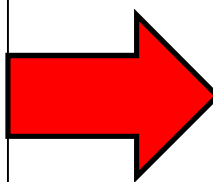


平成31年度問題数
10問

中学校数学



平成30年度問題数
A問題 36問
B問題 14問



平成31年度問題数
16問

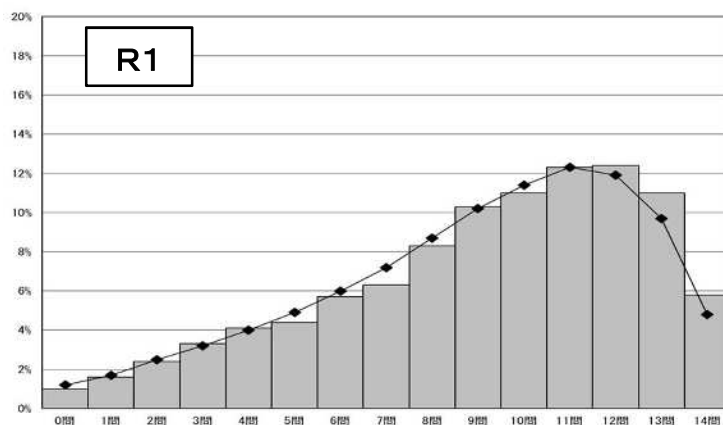
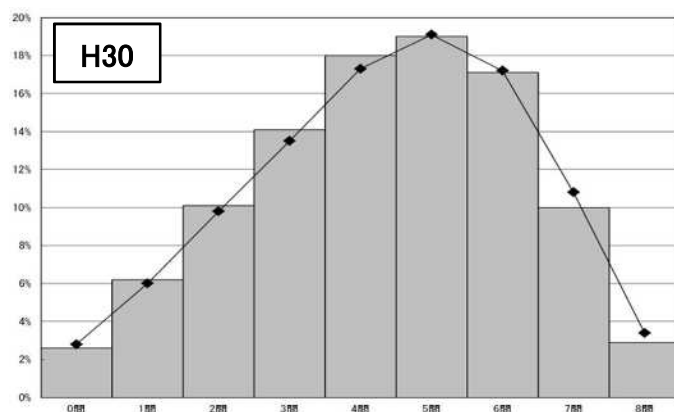
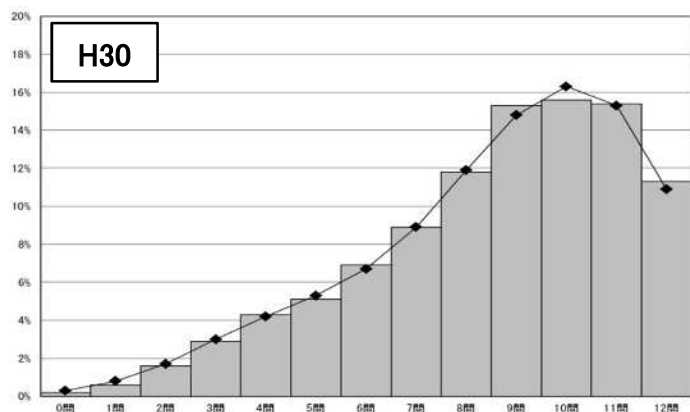
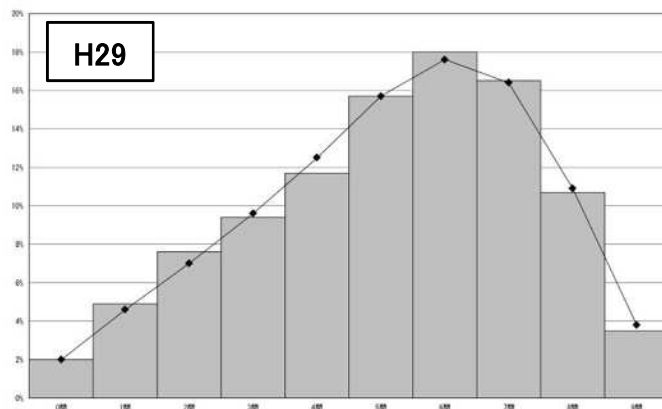
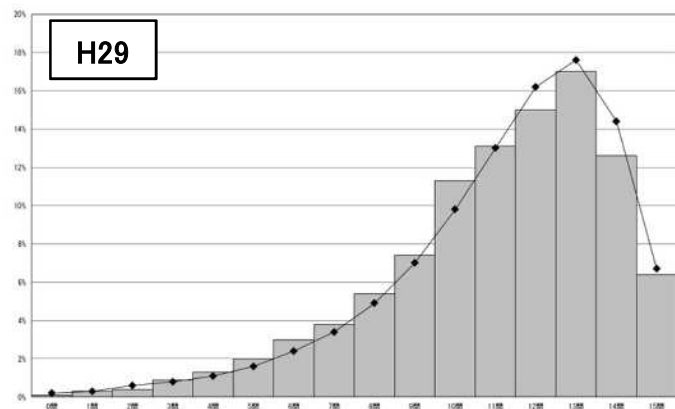
(3) 正答数分布グラフの経年推移 ①小学校国語

北九州市立小学校
全国（公立）

小学校国語では、低位層が減少し、高位層が増加している。

小国A

小国B



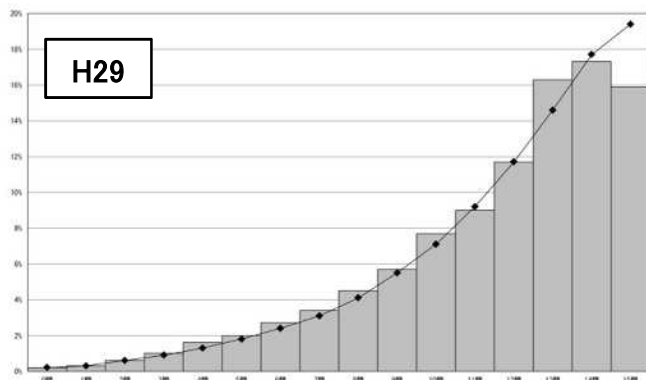
②小学校算数

北九州市立小学校

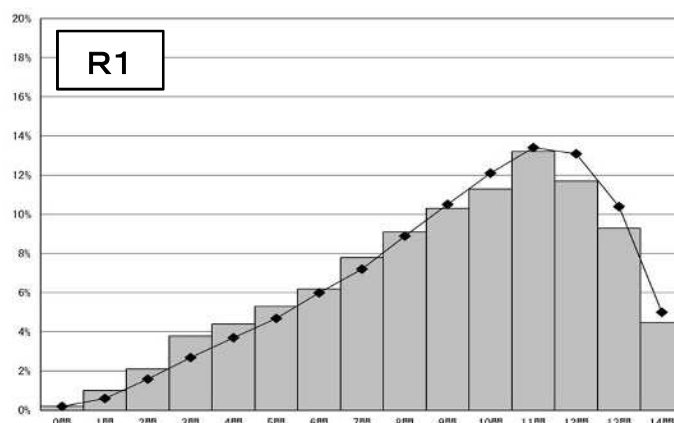
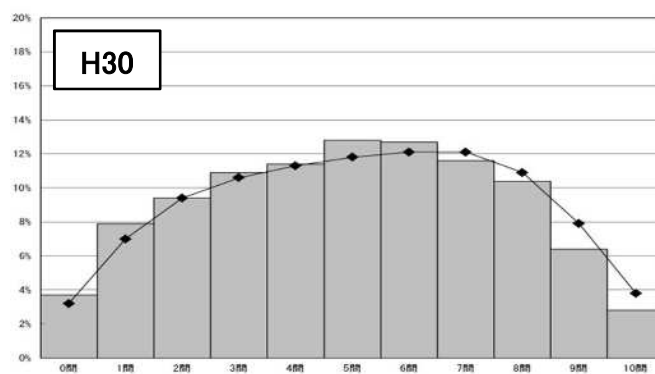
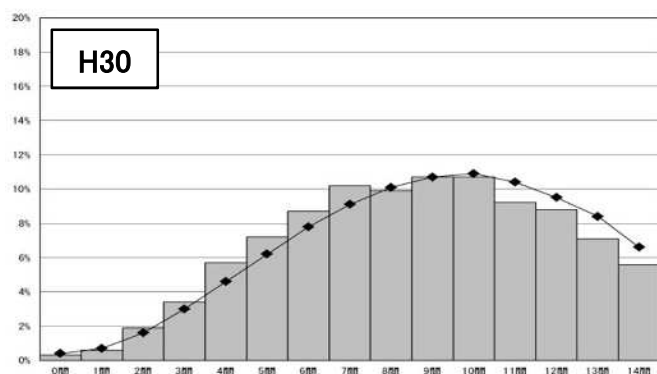
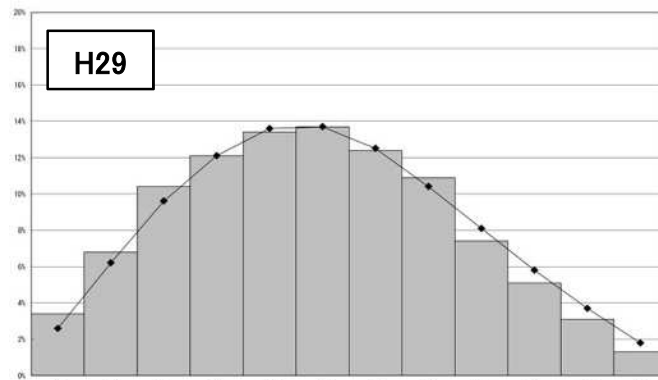
全国（公立）

小学校算数では、低・中位層が全国平均に比べて多い。

小算A



小算B



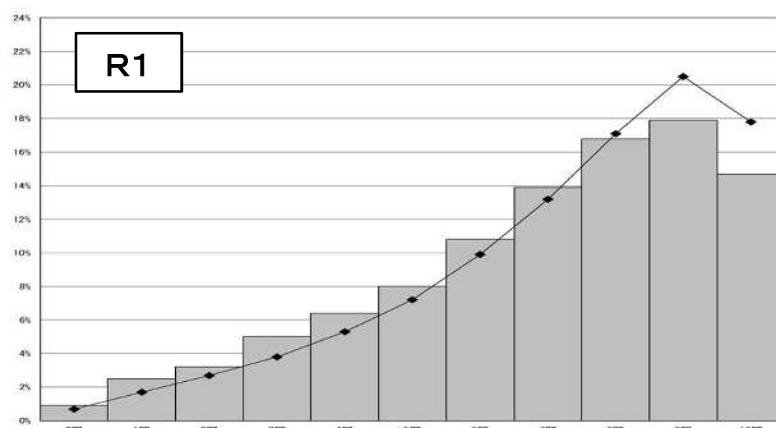
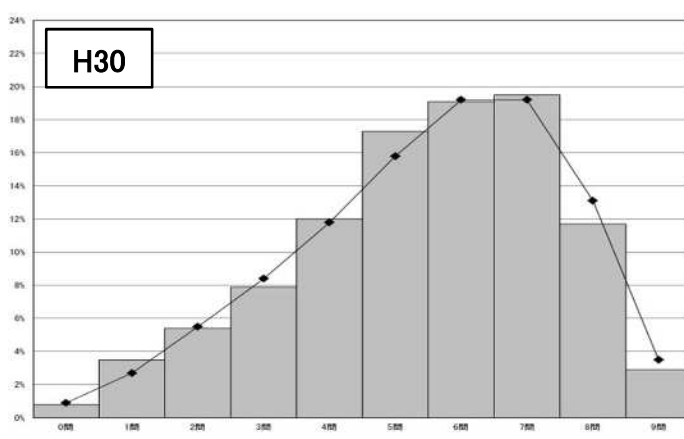
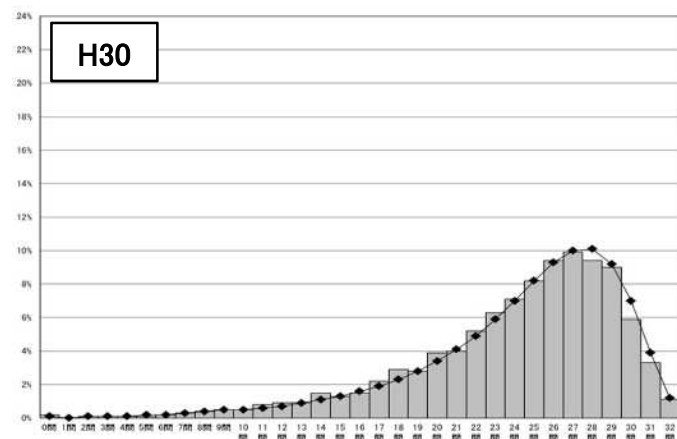
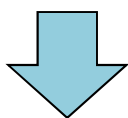
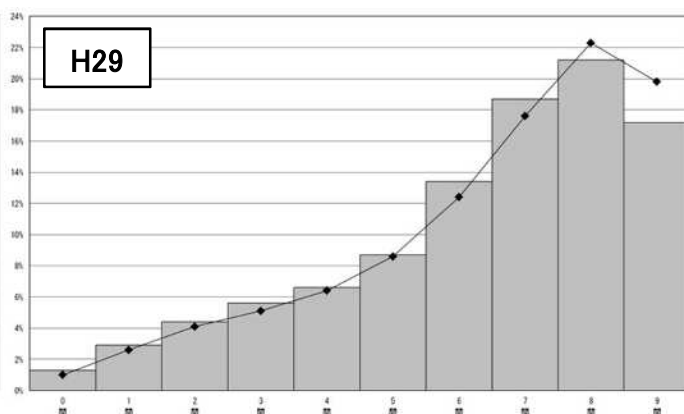
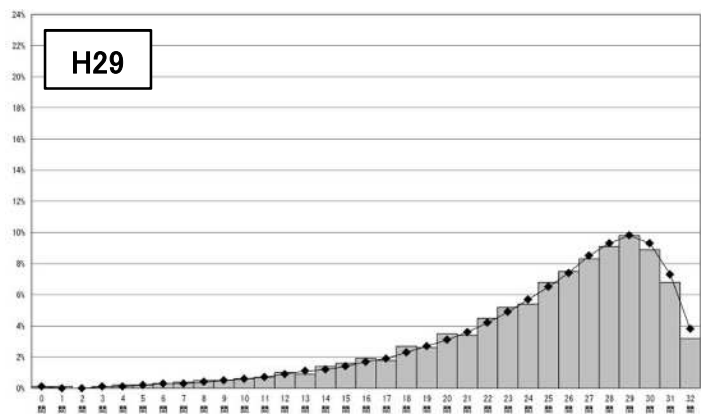
③中学校国語

北九州市立中学校
全国（公立）

中学校国語では、低・中位層が全国平均に比べて多い。

中国A

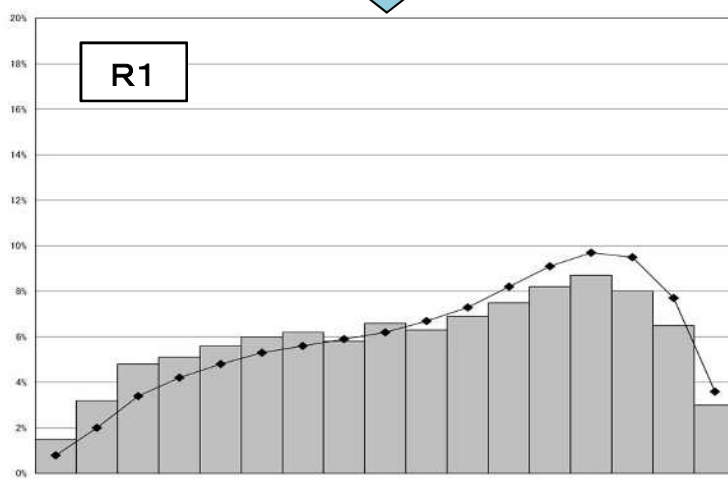
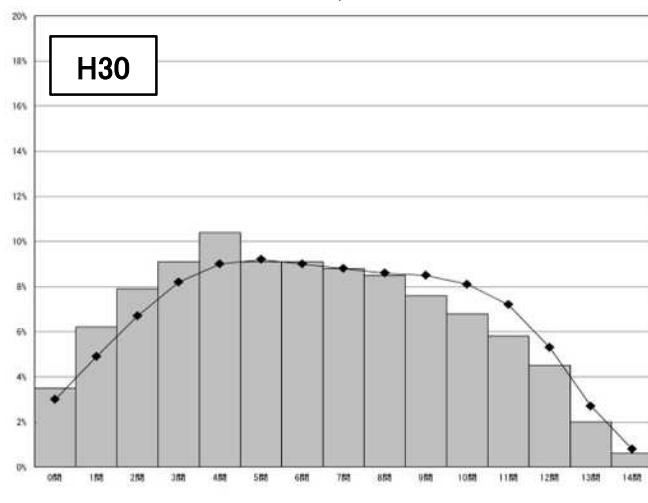
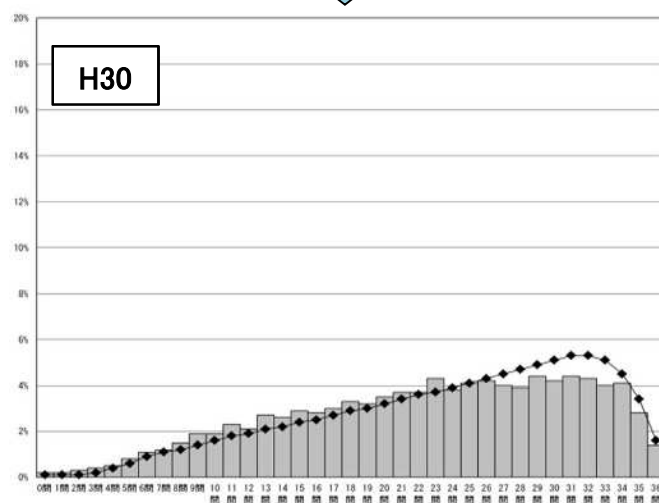
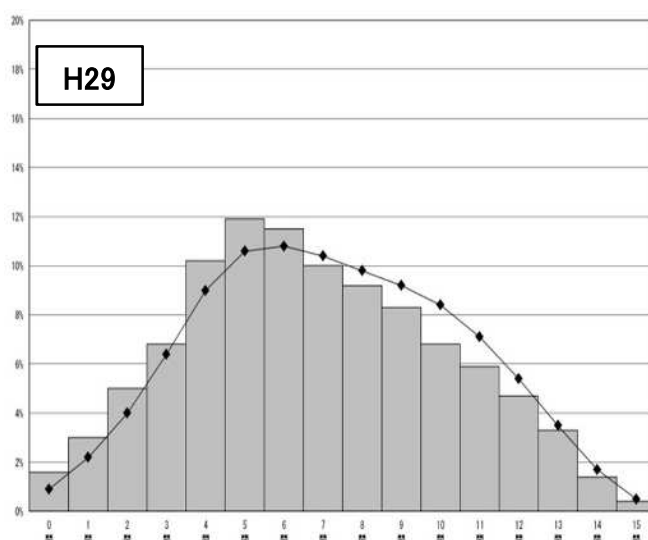
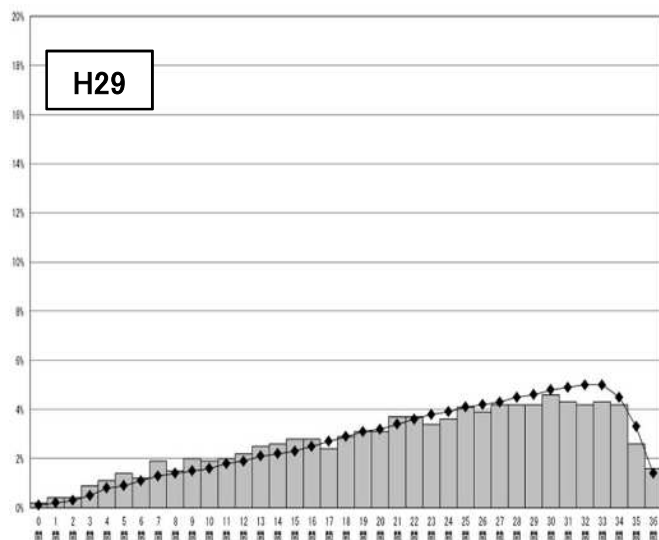
中国B



中学校数学では、低・中位層が全国平均に比べて多い。

中数A

中数B

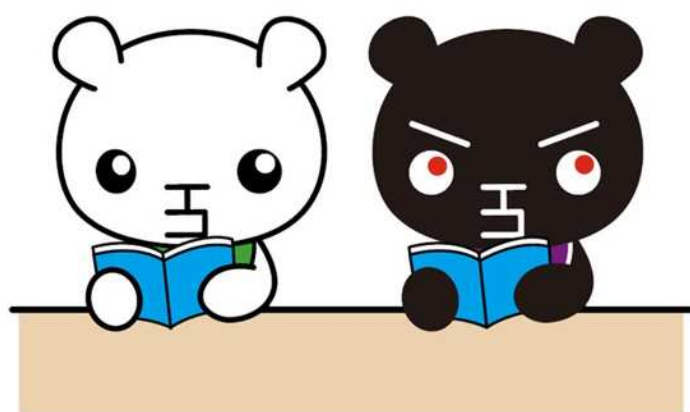
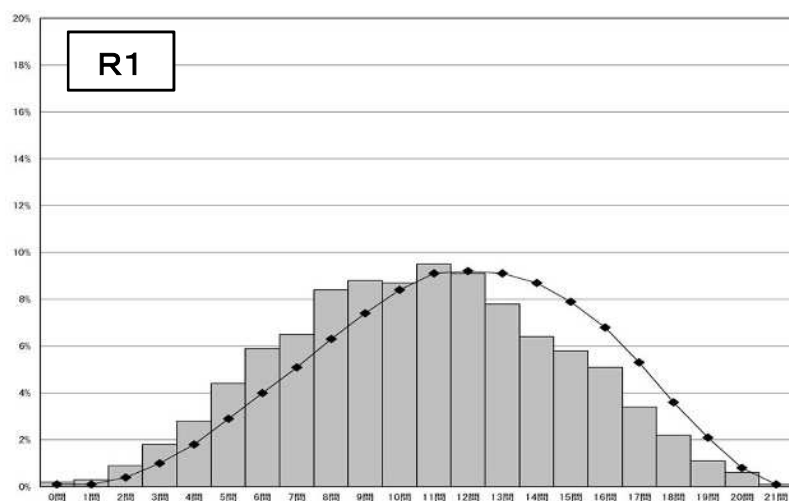


⑤中学校英語

北九州市立中学校
全国（公立）

中学校英語では、低・中位層が全国平均に比べて多い。

中英



(4) 調査結果の推移(資料)

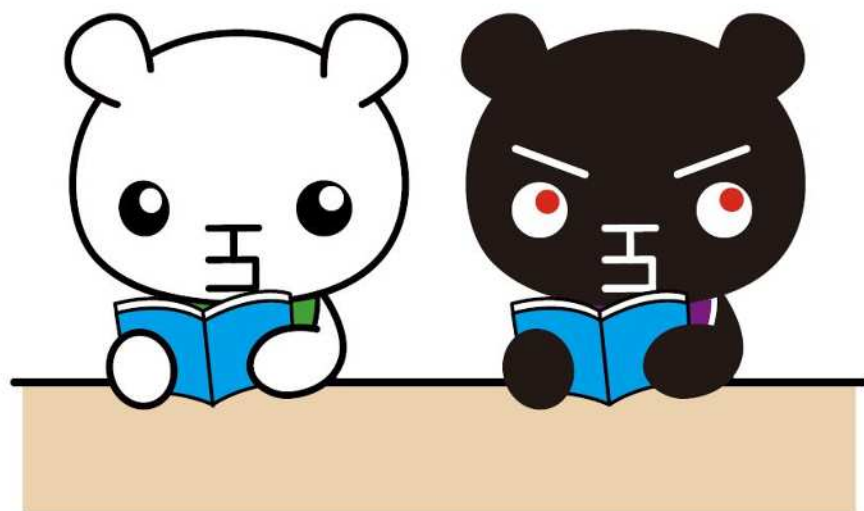
平成22・24年度は、抽出調査及び希望調査利用方式で実施された。
本市では全小・中学校で実施。

■ 全国平均正答率に対する割合(平成19年度～平成30年度)

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	理科	合計	中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科	合計		
H19 年度	本市	81	59	81	61		281	H19 年度	本市	81	69	69	57		276		
	全国	82	62	82	64		289		全国	82	72	72	61		286		
	対全国比	99%	95%	98%	95%		97%		対全国比	99%	96%	96%	94%		96%		
H20 年度	本市	62	45	70	47		225	H20 年度	本市	73	58	60	47		237		
	全国	65	51	72	52		240		全国	74	61	63	49		247		
	対全国比	95%	90%	97%	92%		94%		対全国比	99%	95%	94%	95%		96%		
H21 年度	本市	68	46	77	52		243	H21 年度	本市	76	73	60	54		262		
	全国	70	51	79	55		254		全国	77	75	63	57		271		
	対全国比	97%	92%	98%	94%		96%		対全国比	98%	97%	95%	95%		96%		
H22 年度	本市	82	74	71	47	274	H22 年度	本市	75	66	61	41	243				
	全国	83	78	74	49	285		全国	75	65	65	43	248				
	対全国比	98%	95%	96%	96%	96%		対全国比	99%	102%	94%	94%	98%				
H24 年度	本市	79	52	70	56	60	317	H24 年度	本市	74	61	59	44	49	287		
	全国	82	56	73	59	61	331		全国	75	63	62	49	51	300		
	対全国比	97%	94%	96%	95%	98%	96%		対全国比	98%	97%	94%	89%	95%	96%		
H25 年度	本市	60	46	75	57		238	H25 年度	本市	75	65	60	38		238		
	全国	63	49	77	58		248		全国	76	67	64	42		249		
	対全国比	96%	94%	97%	97%		96%		対全国比	98%	96%	95%	92%		96%		
H26 年度	本市	69	53	76	55		253	H26 年度	本市	77	48	62	54		242		
	全国	73	56	78	58		265		全国	79	51	67	60		258		
	対全国比	95%	95%	98%	95%		96%		対全国比	97%	93%	93%	91%		94%		
H27 年度	本市	67	62	73	44		57	303	H27 年度	本市	74	63	62		38	50	287
	全国	70	65	75	45		61	316		全国	76	66	64		42	53	301
	対全国比	96%	95%	98%	97%		95%	96%		対全国比	97%	96%	96%		91%	94%	95%
H28 年度	本市	70	56	76	45		246	H28 年度	本市	74	64	59	41		237		
	全国	73	58	78	47		256		全国	76	67	62	44		248		
	対全国比	96%	96%	98%	95%		96%		対全国比	97%	96%	95%	93%		96%		
H29 年度	本市	74	57	77	44		252	H29 年度	本市	77	70	62	45		254		
	全国	75	58	79	46		257		全国	77	72	65	48		262		
	対全国比	98%	99%	98%	97%		98%		対全国比	99%	98%	95%	94%		97%		
H30 年度	本市	71	54	61	50		60	296	H30 年度	本市	75	60	63		44	64	306
	全国	71	55	64	52		60	301		全国	76	61	66		47	66	316
	対全国比	101%	99%	96%	96%		99%	98%		対全国比	99%	99%	95%		93%	97%	97%

※ 正答率と対全国比は実際の数値で計算をしているが、整数値で表記している。

2. 各教科の分析



(1) 小学校国語

平均正答率の状況

【領域】

◇「話すこと・聞くこと」領域

必要な情報を得るために、目的に応じた質問をする力が求められている。

→全国平均正答率に対する割合は102%で、成果がでている。

◆「書くこと」領域

目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力が求められている。

→全国平均正答率に対する割合は96%で、課題がある。

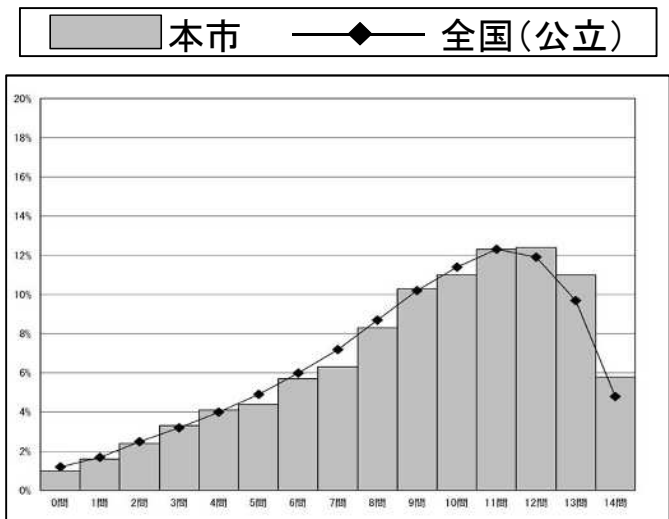
【問題形式】

◇ 記述式の全国平均正答率に対する割合が100%で、成果がでている。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

平成31年度 小学校国語 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



○ 北九州市は、12問正解の児童の割合が最も多い状況である。(全国は11問正解の児童の割合が最も多い。)

小学校国語で成果があった問題

【話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題】

【条件】

○「インタビューの様子」の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと

○ インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること

○ 書き出しの言葉に続けて、三十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと

【正答例】

特に、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと、ちよう戦し続けています。ところが心に残りませんでした。

【条件】

三 (条件に合わせて心に残ったことを書く問題)

○「インタビューの様子」の大谷さんの発言から、言葉や文を取り上げて書くこと

○ インタビューとしてふさわしい言葉づかいにすること

○ 書き出しの言葉に続けて、三十文字以上、六十文字以内にまとめて書くこと

【話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題】

・大谷さんの思いや考えが分かる言葉に着目する

・話の意図を捉える聞き方

・「私にとって、量とは何だろうか。魅力的なものです。だからこそ、五十年間も職人を続けることができたのです」と大谷さんは話す。

・大谷さんが話しているたみのみりよくとは何だろうか。

・大谷さんはどのような思いや考えをもって、たみ職人を五十年間続けてきたのだろうか。

【直接聞いてみたいこと】

・大谷さんは、町の広報紙に取り上げられていた量職人の大谷さんを、手紙の友達に紹介するために、大谷さんにインタビューをすることにしました。次は、「広報紙の記事」、「直接聞いてみたいこと」、「インタビューの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

北九州市正答率 71.0% 北九州市無解答率 10.3%
 全国正答率 68.2% 全国無解答率 14.2%

【成果につながった要因】

- 児童がインタビューの目的に沿って必要な情報を取捨選択し、自分の考えを書きまとめる経験等を、授業を通して、積み重ねていること。
- 自分の考えを「書く活動」や「話し合う活動」を位置付けた対話的な学習が増えてきていること。

(2) 小学校算数

平均正答率の状況

【領域】

◇「数と計算」領域

式で用いられている数や演算の表す意味について、図、表、グラフ等と結び付けて説明する力が求められている。

→全国平均正答率に対する割合は97%で、全国平均に近い。

◆「量と測定」領域

長さ、面積、体積、時間、重さ、角の大きさ、速さなどの量を、目的に応じた単位で表現したり、比較したりする力が求められている。

→全国平均正答率に対する割合は95%で、課題がある。

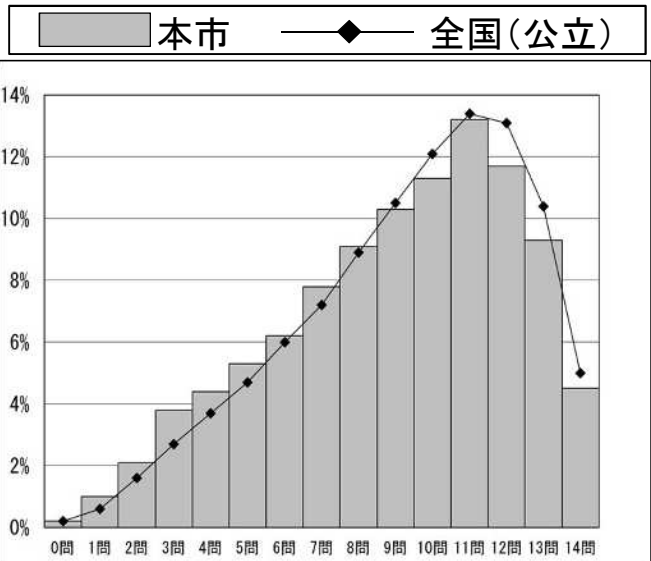
【観点】

◇「数量や図形についての知識・理解」の全国平均正答率に対する割合は99%で、全国平均に近い。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

平成31年度 小学校算数 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

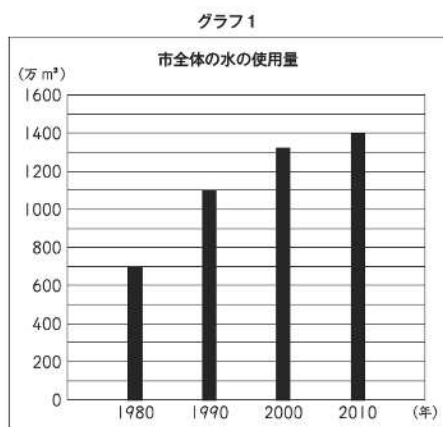


○ 北九州市、全国ともに11問正解の児童の割合が最も多い状況である。

小学校算数で成果があった問題

【棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題】

- ② かいとさんたちは、水を大切にしているのかどうかを知りたいと思い、まず、自分たちの住んでいる市では、水をどのくらい使っているかを調べています。かいとさんは、グラフ1を見つけました。



- (1) 1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、グラフ1からどのようなことがわかりますか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 市全体の水の使用量は、減っている。
- 2 市全体の水の使用量は、変わらない。
- 3 市全体の水の使用量は、増えている。
- 4 市全体の水の使用量は、増えたり減ったりしている。

正答 3

(1) 北九州市正答率 94.2% 北九州市無解答率 0.2%
 全国正答率 95.2% 全国無解答率 0.2%
 【参考】H21B 5 (2) 本市正答率 67.6%

- (2) グラフ1の、2010年の市全体の水の使用量は、1980年の市全体の水の使用量の約何倍ですか。

答えを書きましょう。

正答 (約)2倍

(2) 北九州市正答率 70.4% 北九州市無解答率 1.1%
 全国正答率 78.6% 全国無解答率 1.0%
 【参考】H21B ③ (2) 本市正答率 52.2%

棒グラフから、資料の特徴や傾向を適切に読み取ることができるようになってきています。

【成果につながった要因】

○日常生活において、目的に応じてデータ等を集め、グラフや表などを使ってまとめる活動を行ってきたこと。

○資料から分かることについて、自分なりの考えをもった上で、他者と交流する活動を積み重ねてきたこと。

(資料から分かることの例) ・ グラフがどのように変化しているか(増えている・減っている・変わらない)

・ ある年を基準にすると、他の年は、約何倍になっているか。

など

小学校算数で課題があった問題

【示された図形の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題】

- ① (3) ゆうたさんたちは、2つの合同な台形で作られた図1の形の面積を求めようとしています。

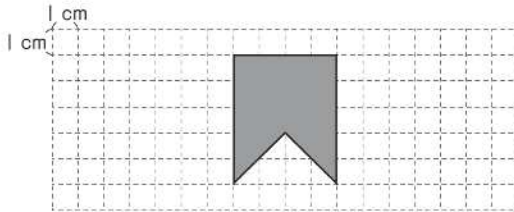


図1

ゆうたさんは、図1の形の面積を、次のように求めました。

【ゆうたさんの求め方】

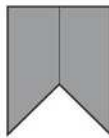
$$(3+5) \times 2 \div 2 = 8$$

$$8 \times 2 = 16$$

答え 16 cm²



図1の形を、下の図のように、合同な台形2つとみました。



まさるさんは、【ゆうたさんの求め方】の中の「 8×2 」が、どのようなことを表しているのかを、下のように説明しました。



8は、1つの台形の面積を表しています。

8×2 は、1つの台形の面積を2倍していることを表しています。

図1の形の面積は、16 cm²であることがわかりました。



わたしは、ほかの求め方を考えました。

【ちひろさんの求め方】

$$5 \times 4 = 20$$

$$4 \times 2 \div 2 = 4$$

$$20 - 4 = 16$$

答え 16 cm²

【ちひろさんの求め方】の中の「 $20 - 4$ 」は、どのようなことを表していますか。「20」と「4」がどのような図形の面積を表しているのかわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

正答(例) 20は、長方形の面積を表しています。4は、三角形の面積を表しています。20-4は、長方形の面積から三角形の面積を引いていることを表しています。

北九州市正答率 43.2%

全国正答率 43.9%

北九州市無解答率 6.3%

全国無解答率 6.7%

【参考】H28 B② (3) 本市正答率15.9%

説明に、「長方形」「三角形」を明確に示すことができていないものが多く見られました。「どの部分を求めているか」「既習のどの公式を使うか」について、言葉や数を用いて説明できるようにすることが必要です。

上の問題を解く力を身に付けるための授業例

<本時のポイント>

1 図1の図形を観察させ、気づいたことについて交流させましょう。

○「二つの合同な『台形』に分けられる」「『長方形』から『三角形』をとってできる形」など、既習の図形を組み合わせでできていることに気付いている発言を価値付けましょう。

2 既習の面積公式を使いながら、面積を求める方法について説明させましょう。

○説明の際に、「 $5 \times 4 = 20$ 、 $4 \times 2 \div 2 = 4$ 、 $20 - 4 = 16$ だから16 cm²です。」など、式と答えのみを伝えて終わった場合には、「20や4は何を表していますか。」「20-4の引くとはどのようなことを表していますか。」など、学級全体に問いかけ、数や演算の意味について、図形を関連付けて説明させることが大切です。

<普段の授業で意識して取り組みたいこと>

○「色板で図形を作る・分解する」「紙を折る・切る」「コンパス・定規・分度器等で作図する」等の活動を充実させましょう。その際、「辺・頂点・面・直角」「平行・垂直」などに着目できるように、つくった図形について「なぜ〇〇形といえるか。」「どのようにして面積を求めるのか。」について説明させることが大切です。

(3) 中学校国語

平均正答率の状況

【領域】

◇「書くこと」領域

目的や意図に応じて相手にわかりやすく書く力が求められている。

→全国平均正答率に対する割合は97%で、昨年度の平均正答率97%と同程度である。「条件に沿って書く」力が、授業で培われてきていることが分かる。

◆「読むこと」領域

文章の構成や展開を理解し、内容を的確にとらえる力が求められている。

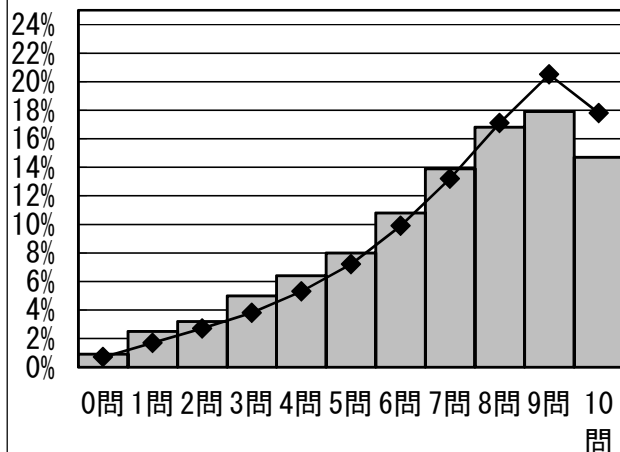
→全国平均正答率に対する割合は94%で、昨年度B問題より4ポイント下回った。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の多い側に集中した山型である。

平成31年度 中学校国語 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

北九州市 全国



○ 全国、北九州市ともに、9問正解の生徒の割合が最も多い状況である。

中学校国語で改善が見られた問題

3 一 【書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する問題】

【2学年】B 書くこと エ

【第一段落前半】
インターネットでの買い物は便利である。

【第一段落後半】
しかし、

皆が買い物の多くをインターネットで済ませるようになったら地域の店は行ってしまうのだろうか。

【第二段落】
地域の店は必要である。

逆説の接続詞「しかし」が使われていることから、前の事柄から予想される結果とは逆の結果になります。

正答

3

【成果につながった要因】

○書いた文章を読み返して、文や段落の接続の関係が適切であるか、どのような説明や具体例を加えたらよいかを検討する学習活動が行ってきたこと。

【これからの学習活動】

○目的に応じて意見を述べる文章を書くとともに、書いた文章を読み返し、標記や語句の用法、叙述の仕方を確かめる活動を取り入れましょう。

第一段落の前半と第二段落をつなぐ働き

最近、我が家ではインターネットを利用して買い物をする機会が増えている。それは、店に行かなくても豊富な商品を選べる上、重い荷物を抱えなくてよいからだ。母も「便利になった」と喜んでいる。これは、インターネットでの買い物ならではの利点だ。しかし、皆が買い物の多くをインターネットで済ませるようになったら、地域の店は行ってしまうのだろうか。

地域の店はこれからは必要だ。なぜなら、地域の店には、インターネットでは買えない魅力があるからだ。私は昨年度、学校の近くの店で職場体験をした。その店では、インターネットでは出回らない、地元の特産品を販売していた。私が自宅で使っている箸もその店で買ったもので、地元の木で作られている。他では買えないその土地ならではの商品も、手に取って選ぶことができるのは、地域の店の魅力だ。

我が家でも買い物の仕方を見直し、インターネットだけでなく地域の店も積極的に利用し、その店を通して地域の魅力をどんどん見付けていきたい。皆さんも毎日の暮らしに目を向けて、地域とのつながりについて改めて考えてみてはどうだろうか。

青木さんは、「地域と私たちとのつながり」というテーマで意見文を書いています。次は、青木さんが書いた「意見文の下書き」と、読み返したあと新たに取材して見つけた、青木さんが住んでいる地域の「広報紙の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【意見文の下書き】

北九州市正答率 86.4% 北九州市無解答率 0.6%
全国正答率 87.4% 全国無解答率 0.4%
【参考】H30A4 (一) 本市正答率 60.6%

中学校国語で課題があった問題

1 二 【文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることができるかどうかをみる問題】
【1学年】C 読むこと イ

「弁当の魅力」について述べられている内容を捉える。
(情報を集め、整理する)

「弁当の魅力」について、設問に適した情報を選択する。

正答 2, 5

これまでの全国学力・学習状況調査において、文章の展開に即して複数の情報を整理し、内容を捉えることなどに課題が見られたことをふまえて出題

北九州市正答率	55.0%
全国正答率	61.5%
北九州市無解答率	0.2%
全国無解答率	0.1%

新聞記事を読み、必要な情報を過不足なく取り出すことに課題が見られました。

文章を読んで内容を捉える際には、文の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したりしながら、目的や必要に応じて過不足なく選択し整理することが重要です。

急速に情報化が進展する社会の中では、目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力を身につける必要があります。

二 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを、次の1から5までの中から全て選びなさい。

- 1 インターネットを利用して、様々な国の弁当を取り寄せることができる。
- 2 主食、主菜、副菜などが収まっており、栄養バランスのよい食事をとることができる。
- 3 ボックスランチやカスクルトなどは異なり、戸外に持ち出して食べることができる。
- 4 いろいろな料理が詰められているので、食べ物風味を保つことができる。
- 5 様々なデザインの弁当箱があり、自分の好みのものを選ぶことができる。



「また」という接続詞があるので、弁当の魅力がもう一つあることが分かる。

で話題になっているのです。弁当の一番の魅力は、小さな箱の中にいろいろな料理が詰められていることです。主食、主菜、副菜、時には果物まできれいに収まっています。そのため、栄養バランスがよい食事として、健康志向の高まりとともに、海外でも注目されるようになったのです。トマトの赤色や卵焼きの黄色などをうまく並べて、鮮やかな色合いになるように工夫された弁当を見て、「まるで宝石箱のようだ」と言う海外の方もいます。

また、様々なデザインの弁当箱を好みに応じて選べることも、弁当の魅力の一つです。例えば、フランスの弁当箱は、木が湿気を吸うので料理が腐りにくく、食べ物風味が保たれるという利点があります。美しい木目や色合い、木の香りなども楽しめる「曲げわっぱ」は、海外でも広く知られています。

弁当は、誰かのために作ったり、皆で持ち寄って和気あいあいと食べたりすることもあります。こうした、人とのつながりをもつことができるのも、弁当の魅力です。最近では、日本だけでなく海外でも、インターネットを利用して、弁当の作り方や詰め方について交流する人が増えています。住んでいる場所も年齢も異なる人たちが、情報を交換し、仲間を作り、楽しんでいるのです。

このように、様々な魅力をもつ弁当は、世界に誇ることができる日本の文化の一つなのです。

次回は、「漫画」を取り上げます。

上の問題を解く力を身に付けるための授業例

＜普段の授業で意識して取り組みたいこと＞

○目的や意図に応じて様々な情報をより主体的に活用する力を付けるため、

- 1 小学校での既習事項を基に、新聞や雑誌など様々な媒体に触れたり、文章の種類による叙述の特徴を捉えながら読んだりする活動を行いましょう。
- 2 文章の内容や構造を理解して必要な情報を取りだしたり、多様な情報に触れる中で自分が興味のある話題に出会い、既知の知識や様々な経験と結び付けて自分の考えを広げたりする活動を行いましょう。

例：中1 教科書P. 60「情報の集め方を知ろう」

興味のある事柄について知りたいことを決め、新聞やインターネット等様々な方法を使って調べたことを伝える活動

○一対一の双方向の対話だけでなく、第三者(多数)に対して(もしくは第三者の立場に立って)話す・書く場面を設定し、他者意識をもたせて文を構成する場面を作りましょう。作った文を周りと共有し、それぞれの立場から意見を出し合い、相手に分かりやすく伝えることを意識づけていきましょう。

(4) 中学校数学

平均正答率の状況

【領域】

◇「数と式」領域

文字のもつ意味、特に変数の意味を理解することや文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の意味を読み取ったりする力が求められている。

→全国平均正答率に対する割合は93%ではあるが、改善が見られる。

◆「関数」領域

関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互的に関連付けて考察し表現する力が求められる。

→全国平均正答率に対する割合は92%で、課題がある。

【観点】

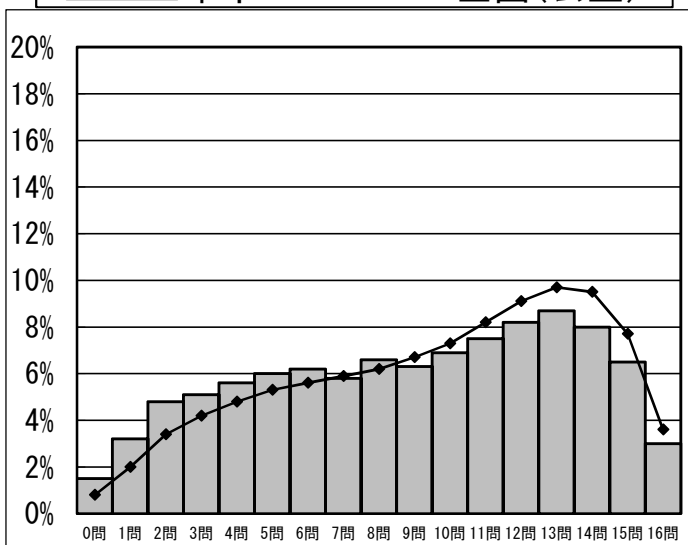
◇「数量や図形についての知識・理解」の全国平均正答率に対する割合は94%で、全国平均に最も近い。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側によった山型である。

平成31年度 中学校数学 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

■ 本市 —◆— 全国(公立)



○ 北九州市、全国ともに13問正解の割合が最も多い。

中学校数学で改善が見られた問題

【簡単な連立二元一次方程式を解くことができるかどうかをみる問題】

2 連立方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解きなさい。

正答 $x = 2$, $y = -3$

北九州市正答率	63.3%	北九州市無解答率	7.2%
全国正答率	70.1%	全国無解答率	5.1%

【参考】 H26 A③ 北九州市正答率 61.1% 北九州市無解答率 14.0%

H26 A③

(4) 連立方程式 $\begin{cases} y = 3x - 2 \\ y = 2x + 3 \end{cases}$ を解きなさい。

【成果につながった要因】

- 特定課題研修(数学)等で、「連立方程式」に関して県立高校入試の出題の変化を周知し、子どもたちの興味がわく「めあて」や「まとめ」、「授業展開」や「板書例」などの授業づくりを学び、授業で実践されていること。
- 解にたどり着くまでの過程にも注目させ、多面的な見方や考え方のもとに、様々な解き方を学習の中で認める活動を取り入れてきていること。

中学校数学で課題があった問題

【本体価格と1年間の電気代を基に、総費用が等しくなる使用年数を説明できるかをみる問題】

- 6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400 L	500 L	500 L
本体価格	80000 円	100000 円	150000 円
1 年間あたりの電気代	15000 円	11000 円	6500 円

健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考えることにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1 年間あたりの電気代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + \left(\frac{1 \text{ 年間あたりの電気代}}{\text{電気代}} \right) \times (\text{使用年数})$$

例えば、冷蔵庫Aを購入して3 年間使用するときの総費用は、 $80000 + 15000 \times 3 = 125000$ となり、125000 円です。

正答例

<アを選択> 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。

<イを選択> 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係を一次関数のグラフに表して、その交点の座標を読み取り、使用年数の値を求める。

北九州市正答率	29.0%	北九州市無解答率	10.3%
全国正答率	34.7%	全国無解答率	11.6%

【参考】 H28 B 3 電気自動車とガソリン車の使用年数と総費用に関する問題
北九州市正答率 27.2% 北九州市無解答率 11.7%

- (2) 健太さんの家では、7 ページの健太さんが作った表で、容量が500 L である冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入して x 年間使用するときの総費用を y 円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」
お姉さん「1 年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」
健太さん「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。

ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式

イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

上の問題を解く力を身に付けるための授業例

<本時のポイント>

- 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの使用年数と総費用に関するグラフをかき、グラフの特徴を調べ、交流させましょう。
○冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのグラフの傾きや切片、交点の位置、使用年数や総費用についての気づきを認め合い、まとめ、整理させましょう。
- 振り返る学習として、「連立方程式を解く」ことのよさと、「一次関数のグラフに表して解く」ことのよさを説明させましょう。
○グラフを用いれば、使用年数が一目で分かることや、式を用いれば正確な値を計算で求められることを理解し、多面的な解決方法と解決のよさを説明させることが大切です。

<普段の授業で意識して取り組みたいこと>

- 数学を活用して解決できるようにするために、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定しましょう。また、表、式、グラフなどの根拠となるもの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることができるようしましょう。

(5) 中学校英語

平均正答率の状況

【領域】

◇受容的な技能(「聞くこと」「読むこと」領域)

話されたり書かれたりしている内容そのものを理解することが求められている。

→全国平均正答率に対する割合は「聞くこと」領域は94%、「読むこと」領域は93%である。

◆発信的な技能(「書くこと」「話すこと」領域)

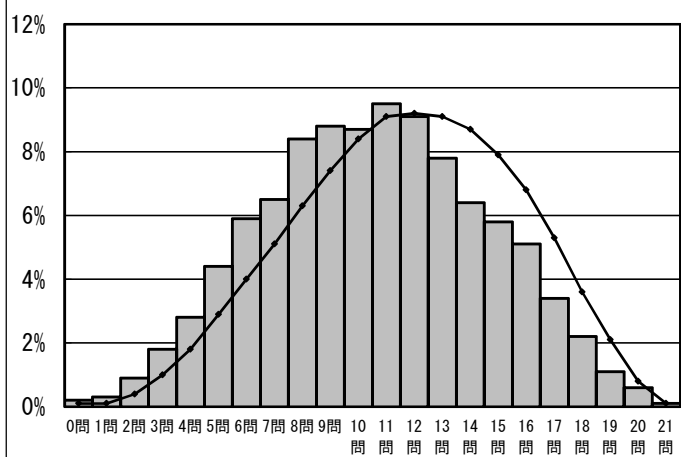
基本的な語や文法事項等の知識の定着やそれらを活用することが求められている。

→全国平均正答率に対する割合は「書くこと」領域は84%である。特に、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある文章を書く問題は、全国・本市正答率ともに2%以下である。

正答数分布図

学力の分布は、正答数の少ない側に寄った山型である。
平成31年度 中学校英語 正答分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)

■ 本市 —◆— 全国(公立)



○北九州市は、11問正解の割合が最も多いが、全国は、12問正解の生徒の割合が最も多い状況である。

中学校英語で正答率の高い問題

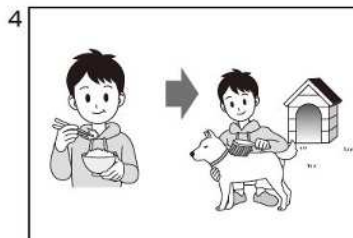
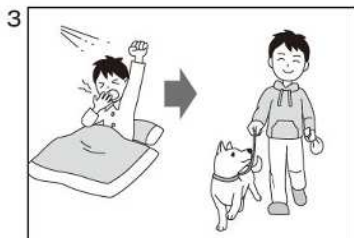
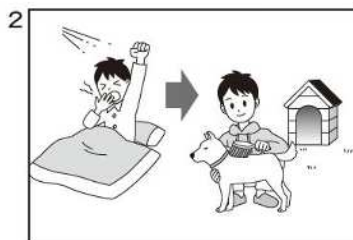
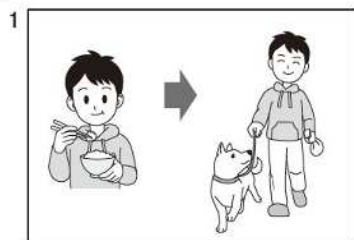
【(リスニング)英語を聞いて情報を正確に理解することができるかどうかをみる問題】

1 (放送問題)

話される英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を、それぞれ1から4までの中から1つ選びなさい。

正答 3

(1)



<スクリプト>

I get up at six every Sunday and take my dog for a walk.

get up, for a walkの語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる。

北九州市正答率	88.2%
全国正答率	91.1%
北九州市無解答率	0.4%
全国無解答率	0.2%

【成果につながった要因】

○授業を英語で行い、ALTや音声教材等を日頃の授業で活用し、日常的に英語の音に慣れ親しむ環境づくりを行っていること。

○帯活動でリスニング練習・速読練習等に取り組んだり、語句や文法事項等の内容理解の確認を丁寧に行っていること。

中学校英語で課題があった問題

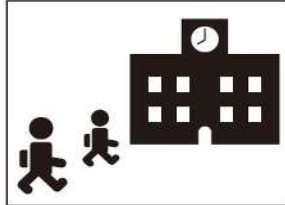
【与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題】

- 10 海外のある町が、外国人旅行者にも分かりやすいタウン・ガイドを作成するために、「学校」を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）のうち、どちらがよいかわェブサイトで意見を募集しています。どちらかの案を選び、2つの案について触れながら、あなたの考えを理由とともに25語以上の英語で書きなさい。

【 A 】



【 B 】



※ 短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (、や ? など) は語数に含めません。

(例) No. I'm not. 【3語】

「まとまりのある文章を書く」とは、自分の考えに加えてその理由を述べているなど、文と文の順序や、相互の関連に注意を払い、全体として話題や文章構成に一貫性のある文章を書くことを意味します。

正答例

I think A is better. It shows a teacher and students in a classroom, so it looks like a school. I don't think B is good because it looks like library. (32語)

北九州市正答率	1.3%	北九州市無解答率	9.6%
全国正答率	1.8%	全国無解答率	8.3%

【(リスニング)聞いて把握した内容について、適切に応じることができるかどうかをみる技能統合の問題】

- 4 英語の授業で、来日予定の留学生からの音声メッセージを聞かれます。メッセージの内容を踏まえて、あなたのアドバイスを英語で簡潔に書きなさい。

(スクリプト) Hello. I'm Nick. I'm looking forward to meeting you. I'm going to stay in your country for two weeks. I hear that there are a lot of club activities in Japanese schools. I want to try some! Which club activities can I try? Can you give me some advice? I'm waiting for your answer. Thank you.

解答例 You can try the judo club. (語句だけでも正解の例) The art club.

北九州市正答率	4.6%	北九州市無解答率	44.2%	全国正答率	7.6%	全国無解答率	42.3%
---------	------	----------	-------	-------	------	--------	-------

最も無解答率の高い問題です。「アドバイスを書く以前に、メッセージの内容を理解できていない。」または、「メッセージの内容を理解できていても、何をアドバイスしたら良いのかが分からない。」ことが主な原因として考えられます。今後は、日々の授業において、1度で聞く習慣を身につけ、聞いたことに対して応答する活動を継続することが必要です。

上の問題を解く力を身に付けるための授業例

< 普段の授業で意識して取り組みたいこと >

- 1 語彙・文法等の基礎的な知識・技能を繰り返し学習する常活動の継続

○言葉は日々使うことで定着していきます。既習事項を様々な形で復習する時間を授業に必ず組み込みましょう。



- 2 スモールトークの導入

○課題に対して即興で伝え合うような学習場面を授業に取り入れましょう。

○「書かせて覚えさせる。」「覚えて言わせる。」という取組から、もっと気軽なスモールトークを授業の中に！

- 3 小中連携の視点を持ち、活用しながら身に付けていくという発想の転換を！

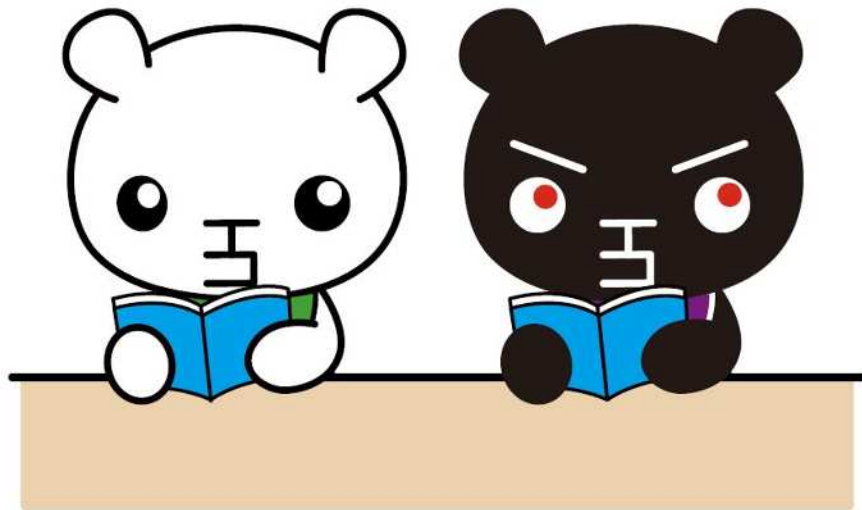
○語彙や文法を「説明する」「暗記させる」「意味を言わせる」という指導方法から、英語を実際のコミュニケーションの手段として活用して身に付けさせるようにしましょう。

- 4 聞いたり読んだりした内容について、即興で意見を書く技能統合的な問題に取り組みましょう。

○日ごろから相手の話す内容を一度で聞いたり、一度で読んで理解する意識をもたせましょう。

- 5 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意して、まとまりのある文章を書く活動を行いましょう。

3. 学習状況調査結果・分析



(1)学習状況調査結果について(概況)

児童生徒質問紙から、「学びの育ち」と「心の育ち」に関係の深い質問項目を選び、子どもたちの質問に対する回答状況を数値化し、指標としています。

		小学校			中学校					
		上段:北九州市		前 年 比	上段:北九州市		前 年 比			
		下段:全国			下段:全国					
		H30年度	R1年度		H30年度	R1年度				
質問項目										
学 び の 育 ち	学校での 学習	授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。		☆79.7	★81.8	↑	☆73.6	★78.5	↑	
		—		—	—	—	—	—		
		学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか。 ※この項目は、数値が少ないほうがよい。		☆58.9	★57.9	↑	☆67.2	★66.1	↑	
		—		—	—	—	—	—		
		授業では、学級の友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。		☆83.9	★86.6	↑	☆80.8	★86.4	↑	
		—		—	—	—	—	—		
		学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。		77.8	73.6		72.9	72.9		
		77.7		74.1		76.3	72.8			
		授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。		74.6	75.9	↑	68.0	74.3	↑	
		76.7		77.7		73.8	74.8			
		自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。		★67.6	68.6	↑	★63.3	61.6		
		—		65.7		—	61.5			
		算数（数学）の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ（根拠）を理解するようにしていますか。		78.1	82.5	↑	66.1	★67.4	↑	
		80.4		84.0		70.4	—			
	学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。	63.3	69.7	↑	48.4	52.0	↑		
			67.6	71.5		52.1	50.4			
			家で、学校の宿題をしていますか。		97.1	★95.4		91.6	★87.8	
			97.1	—		91.6	—			
		学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。 （1時間以上行う割合）	58.1	59.0	↑	59.3	60.4	↑		
			66.2	66.1		70.6	69.8			
			読書は好きですか。		★74.2	75.7	↑	★65.3	67.2	↑
		—		75.0		—	68.0			
		学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 （「全く読まない」を選んだ割合）※この項目は、数値が少ないほうがよい。	★24.1	20.7	↑	★41.1	39.6	↑		
			—	18.7		—	34.8			
			朝食を毎日食べていますか。		91.8	92.6	↑	89.0	91.0	↑
		生活習慣	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	94.5	95.3		91.9	93.1		
				76.6	81.3	↑	73.5	78.1	↑	
				77.0	81.4		74.2	78.0		
			普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。（1時間以上行う割合）※この項目は、数値が少ないほうがよい。		☆61.7	★62.2		☆64.9	★65.2	
			—		—		—	—		
			普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）（1時間以上行う割合）※この項目は、数値が少ないほうがよい。		☆24.0	★24.2		☆51.6	★49.6	↑
—		—		—	—					
自尊感情 夢 目標	自分には、よいところがあると思いますか。	82.7	78.0		78.4	72.9				
		84.0	81.2		78.8	74.1				
		86.5	85.7		70.8	71.0	↑			
	将来の夢や目標を持っていますか。	85.1	83.8		72.4	70.5				
		94.7	94.4		94.4	94.5	↑			
		95.2	95.2		94.9	94.3				
地域や 社会への 関心	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。	66.4	★62.1		59.6	★57.4				
		63.8	—		59.3	—				
	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	64.4	71.9	↑	44.1	59.2	↑			
		62.7	68.0		45.6	50.6				

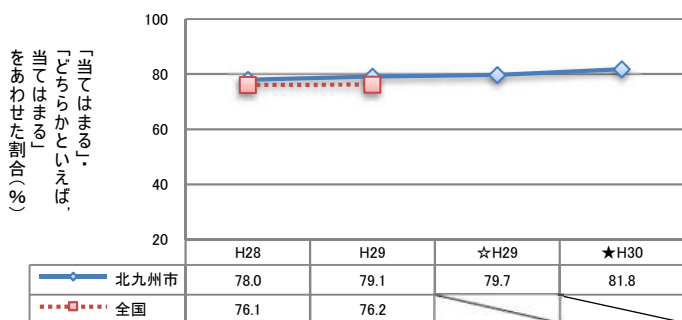
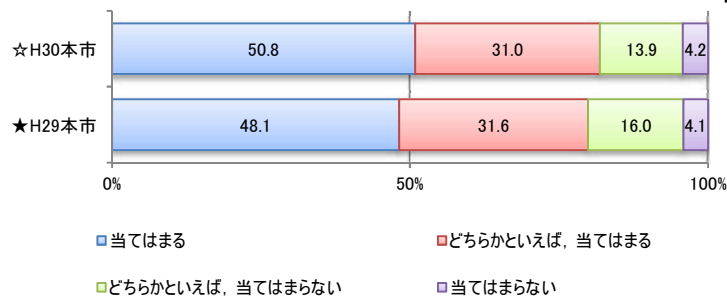
☆印は、平成30年1月（平成29年度）に実施した北九州市学力状況調査（小5年・中2年）の結果を掲載しています。
★印は、平成30年12月・平成31年1月（平成30年度）に実施した北九州市学力状況調査（小5年・中2年）の結果を掲載しています。

(2) 学習状況調査結果の経年推移 ① 学びの育ち 【学校での学習について】

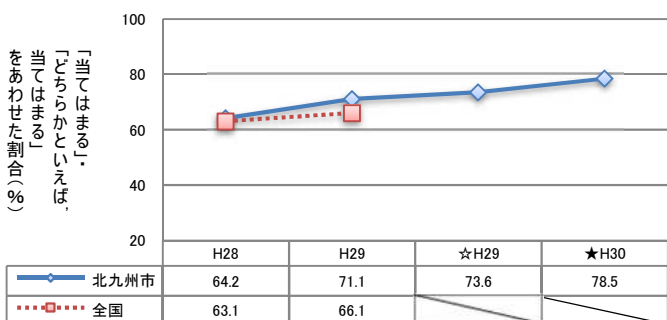
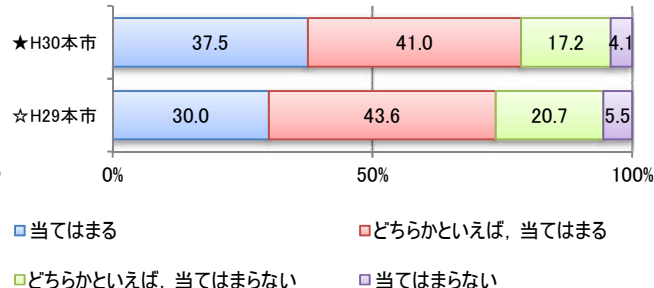
児童生徒質問紙から、「学びの育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

★H30北九学調 小5(45)・中2(45) 【授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか】

【小学校】



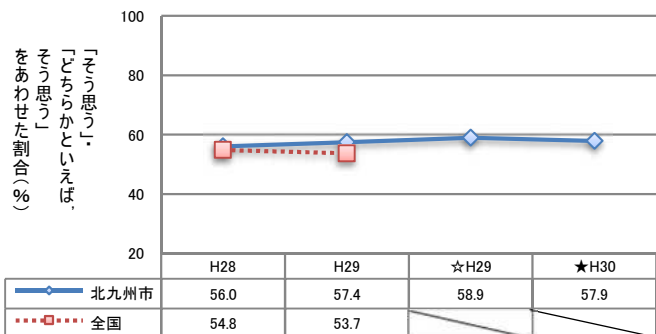
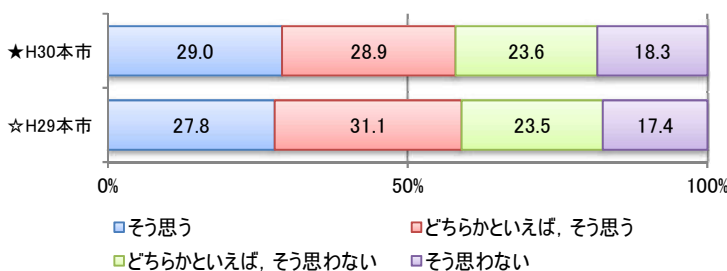
【中学校】



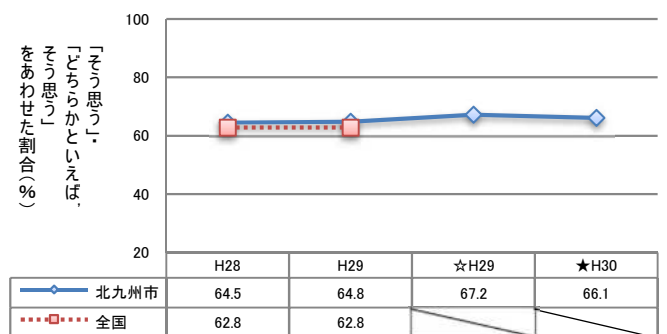
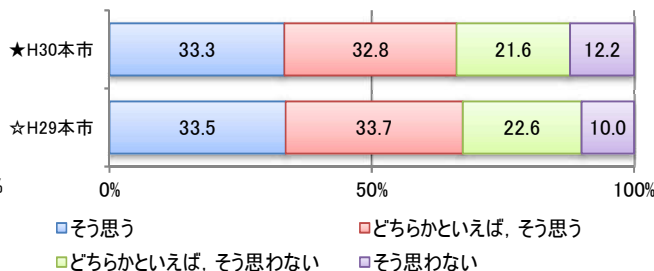
「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも平成29年度の全国平均を上回り、昨年度の本市平均と比べると、小学校では同程度であり、中学校では若干上回っている。

★H30北九学調 小5(49)・中2(49) 【学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか】 ※この項目は、数値が少ないほうがよい。

【小学校】



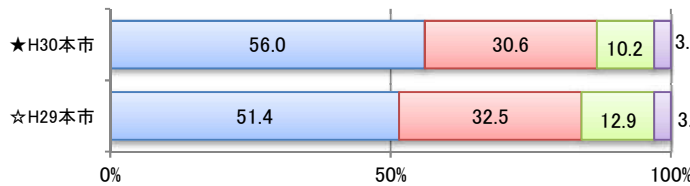
【中学校】



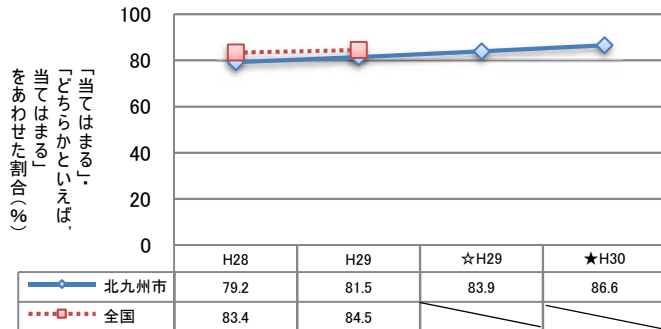
「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校とも平成29年度の全国平均を若干上回り、昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに同程度である。

★H30北九学調 小5(40)・中2(40) 【授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか】

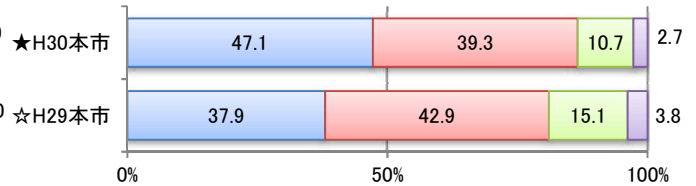
【小学校】



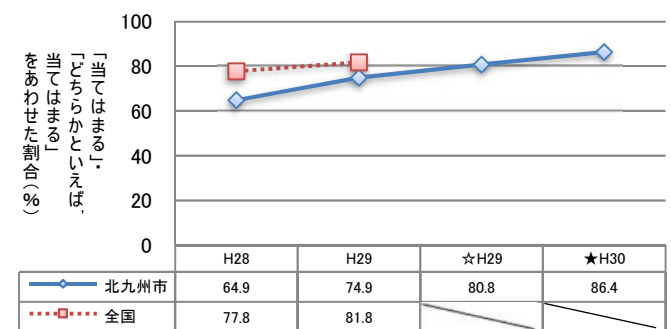
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【中学校】



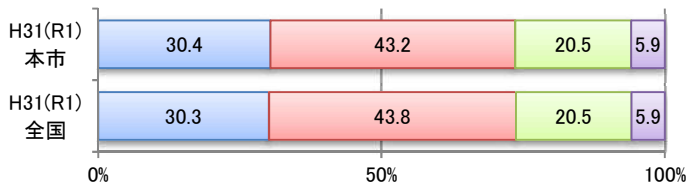
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



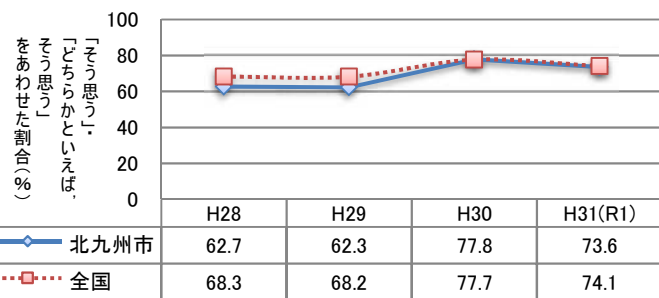
「授業では、学級の友達(生徒)との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校は平成29年度の全国平均と同程度であるが、中学校は若干上回っている。昨年度の本市平均と比べると、小学校は同程度であるが、中学校は上回っている。

質問番号 小29・中32 【学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか】

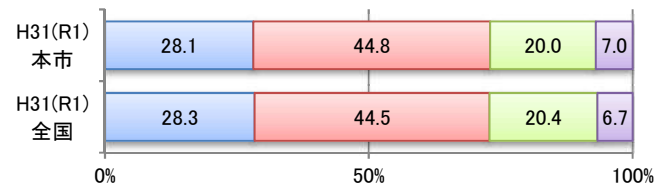
【小学校】



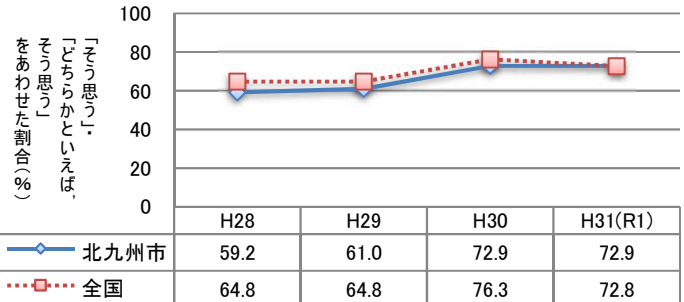
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない



【中学校】



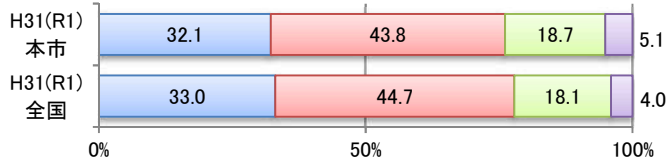
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う
■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない



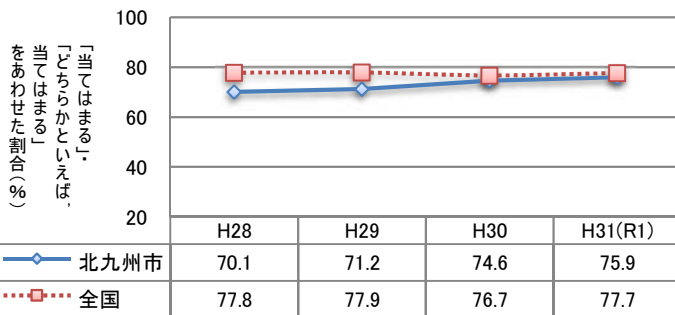
「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小学校は若干下回り、中学校は同程度である。

質問番号 小35・中37 【授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか】

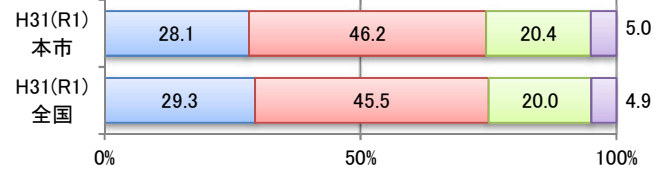
【小学校】



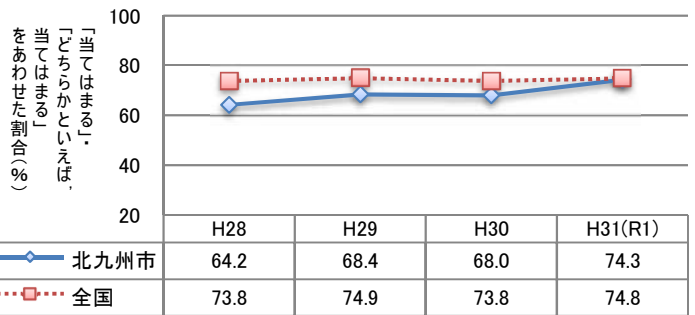
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【中学校】



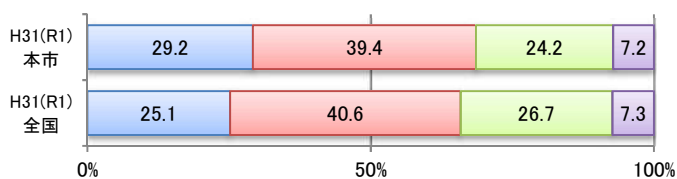
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



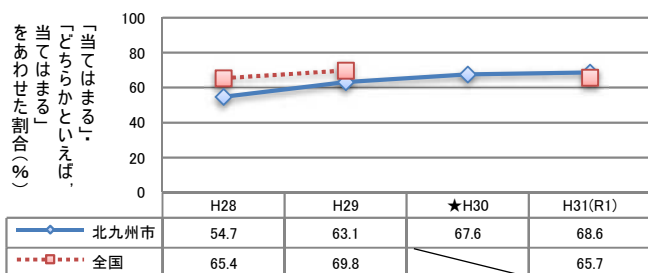
「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに、全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小学校は同程度であるが、中学校は上回っている。

質問番号 小31・中34 【自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか】

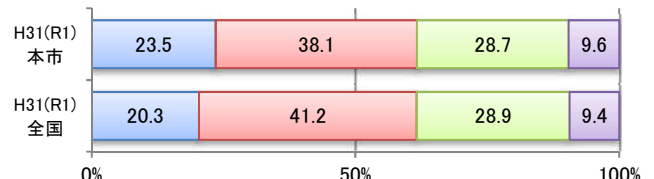
【小学校】



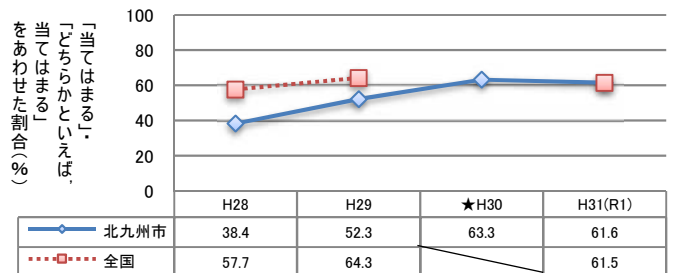
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【中学校】



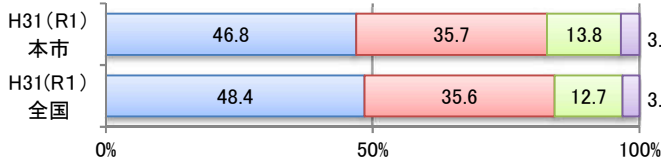
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



授業では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校で全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに同程度である。

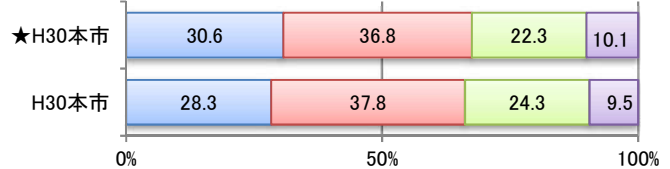
質問番号 小54・中61(★H30) 【算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか】

【小学校】

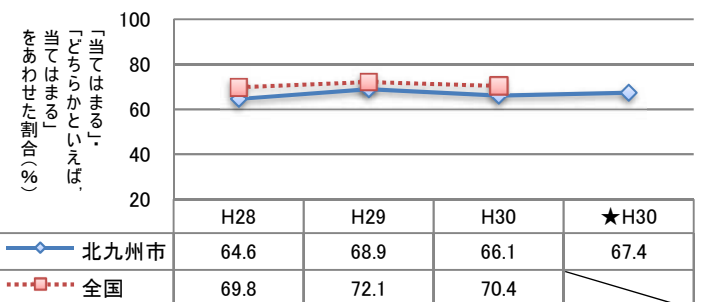
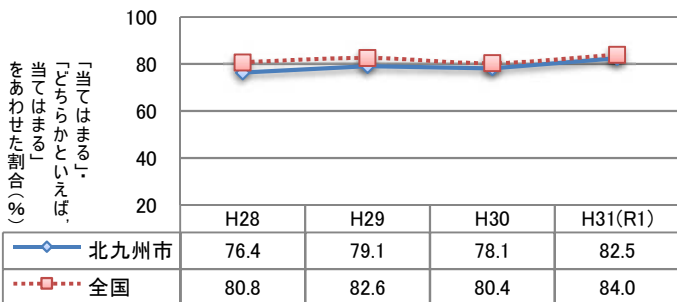


□ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

【中学校】



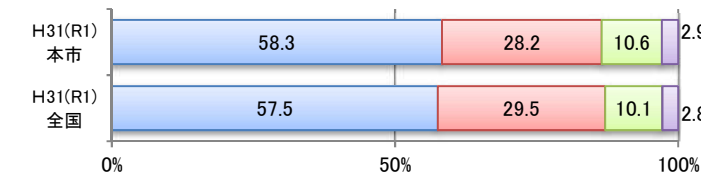
□ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



「算数(数学)の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均と同程度であるが、中学校は平成30年度の全国平均を若干下回っている。昨年度の本市平均と比べると、小学校は若干上回っているが、中学校は同程度である。

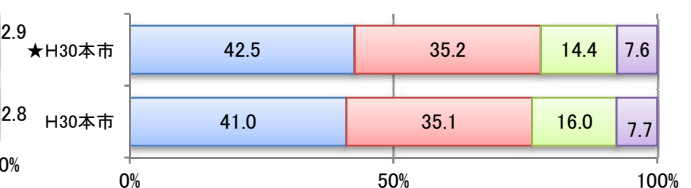
質問番号 小55・中62(★H30) 【算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか】

【小学校】

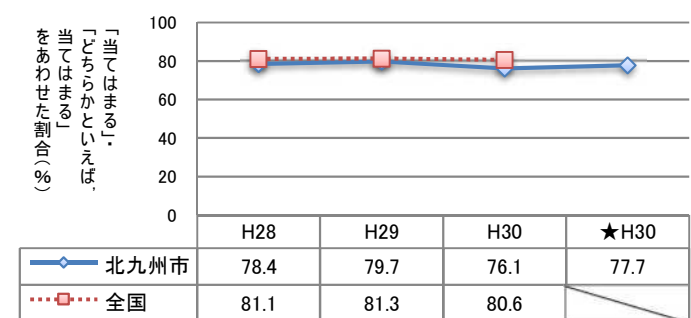
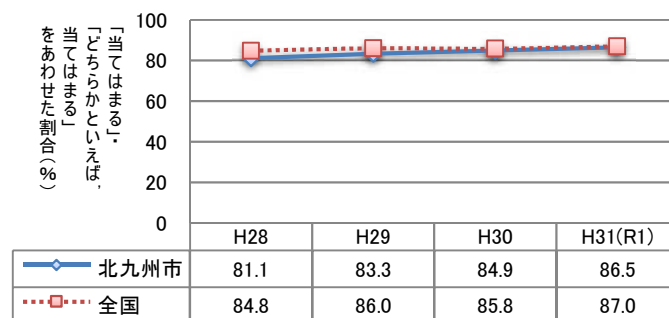


□ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

【中学校】



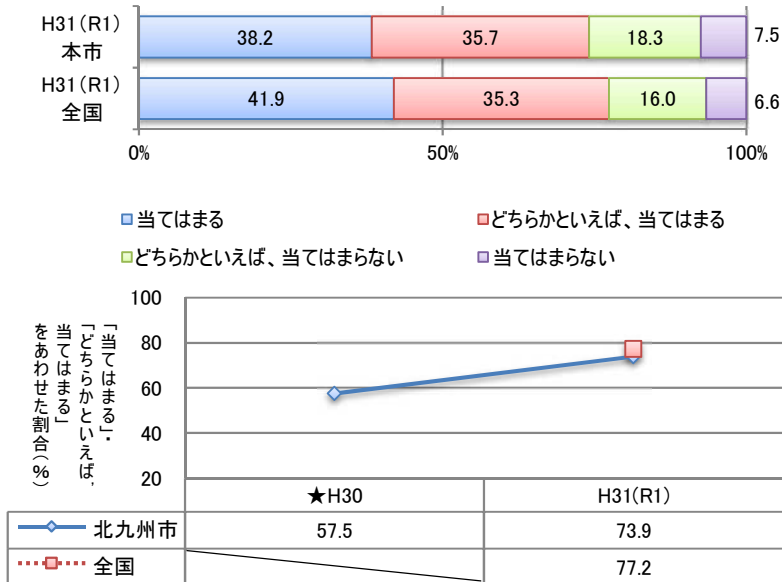
□ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



「算数(数学)の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均と同程度であり、中学校では、平成30年度の全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べても、小・中学校ともに同程度である。

質問番号 中63 【スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思う】

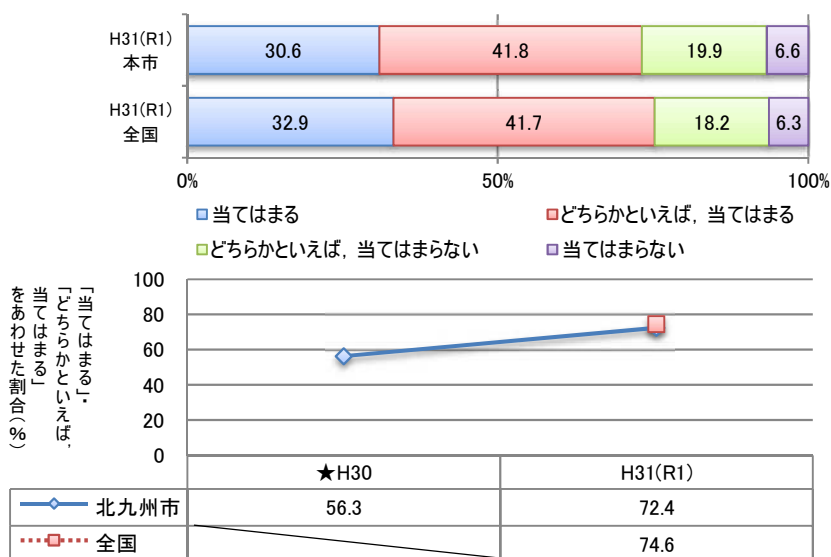
【中学校】



「英語の授業で、スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思う」について、肯定的な回答をした割合は、全国平均を若干下回っている。昨年度の本市平均と比べると上回っている。

質問番号 中66 【聞いたり読んだりしたことについて、その内容が英語で書いたりまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う】

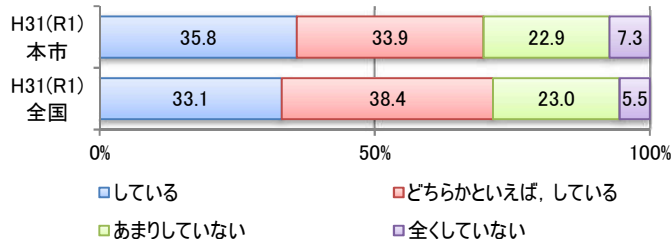
【中学校】



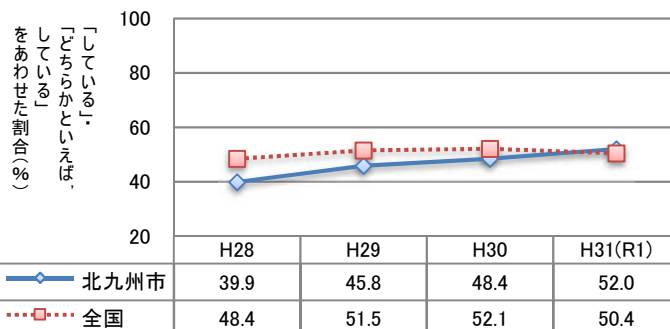
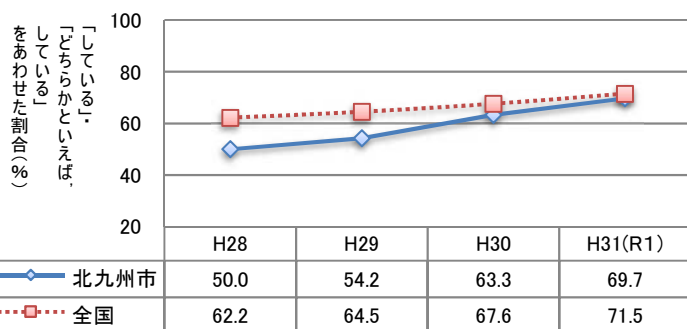
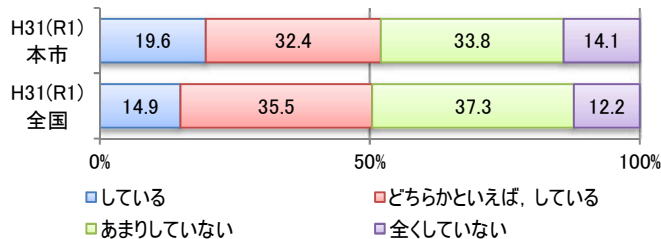
「英語の授業で、聞いたり読んだりしたことについて、その内容が英語で書いたりまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う」について、肯定的な回答をした割合は、全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると上回っている。

質問番号 小・中17 【家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか】

【小学校】



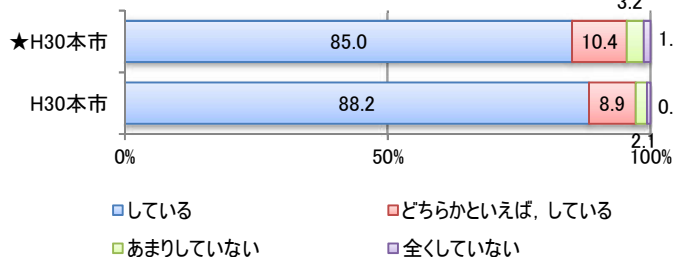
【中学校】



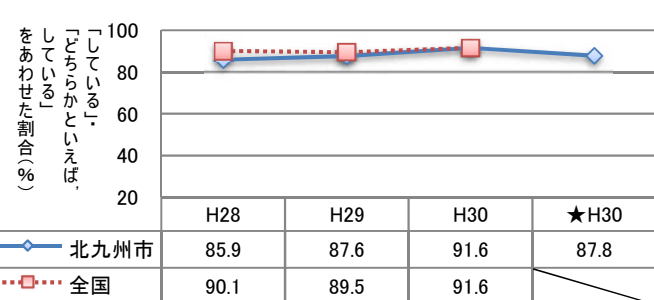
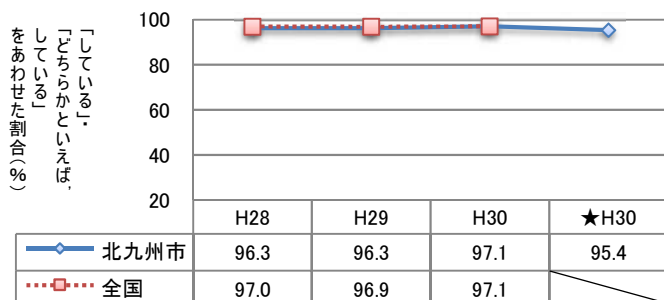
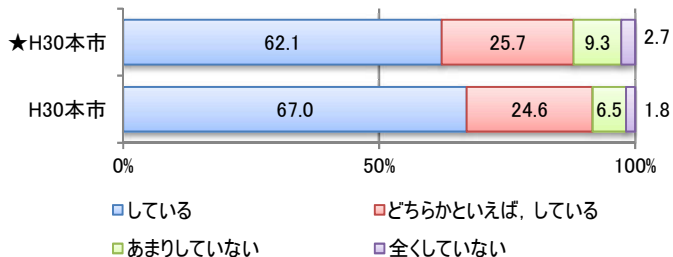
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校で全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小学校は上回っており、中学校は若干上回っている。

★H30北九学調 小(14)・中(14) 【家で、学校の宿題をしていますか】

【小学校】



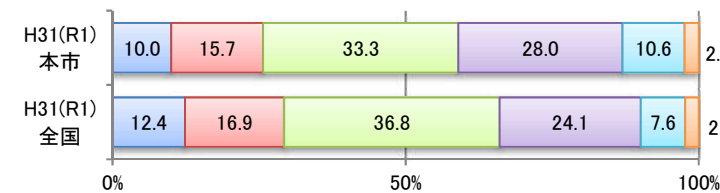
【中学校】



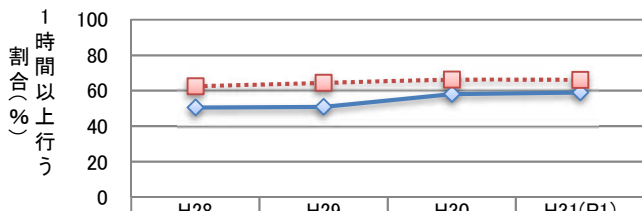
「家で、学校の宿題をしていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では平成30年度の全国平均と同程度であり、中学校では若干下回っている。昨年度の本市平均と比べると、小学校は同程度であるが、中学校は若干下回っている。

質問番号 小・中18 【学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか】

【小学校】

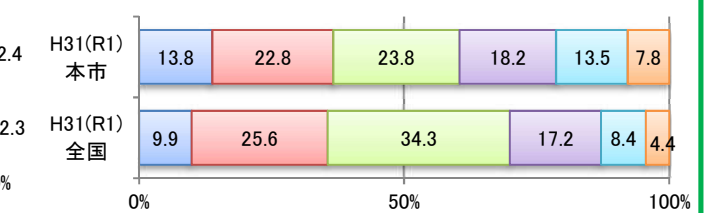


- 3時間以上
- 2時間以上, 3時間より少ない
- 1時間以上, 2時間より少ない
- 30分以上, 1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くやっていない

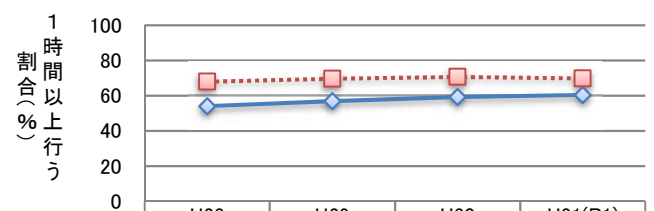


	H28	H29	H30	H31(R1)
北九州市	50.5	50.8	58.1	59.0
全国	62.5	64.4	66.2	66.1

【中学校】



- 3時間以上
- 2時間以上, 3時間より少ない
- 1時間以上, 2時間より少ない
- 30分以上, 1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くやっていない



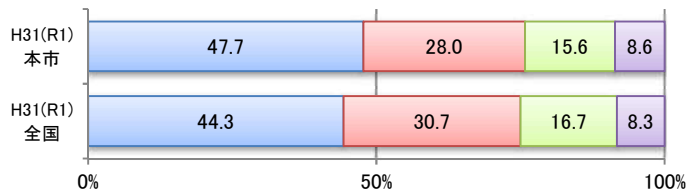
	H28	H29	H30	H31(R1)
北九州市	54.0	56.8	59.3	60.4
全国	67.9	69.6	70.6	69.8

「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）」について、「1時間以上勉強している」と回答した割合は、小・中学校ともに全国平均を下回っている。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに同程度である。

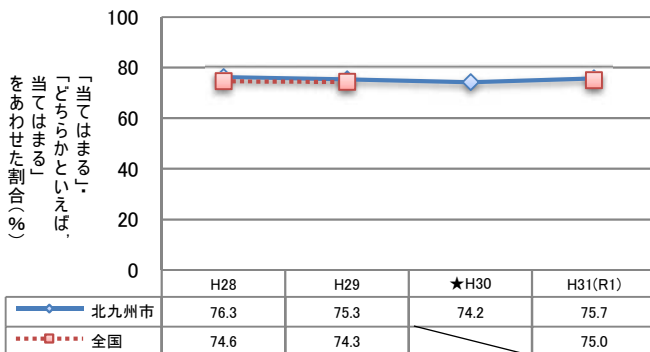


質問番号 小・中21 【読書は好きですか】

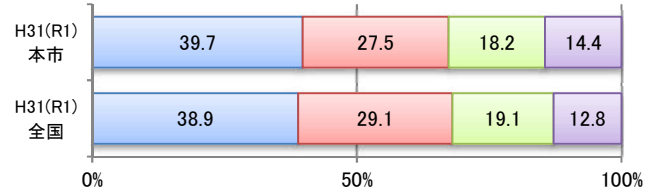
【小学校】



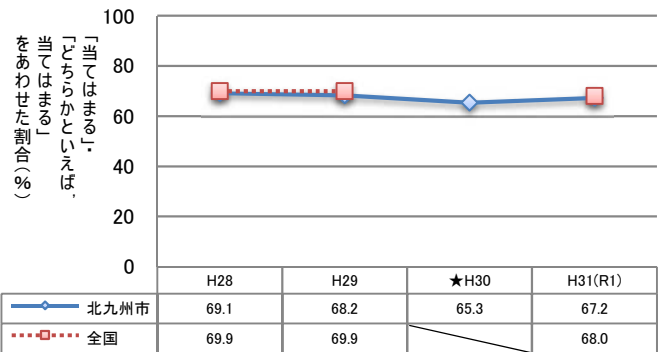
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



【中学校】



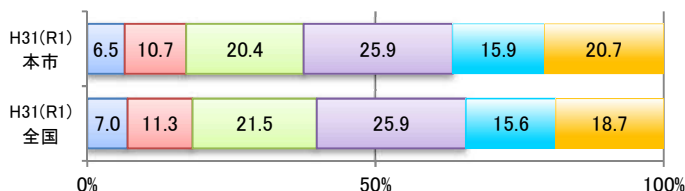
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



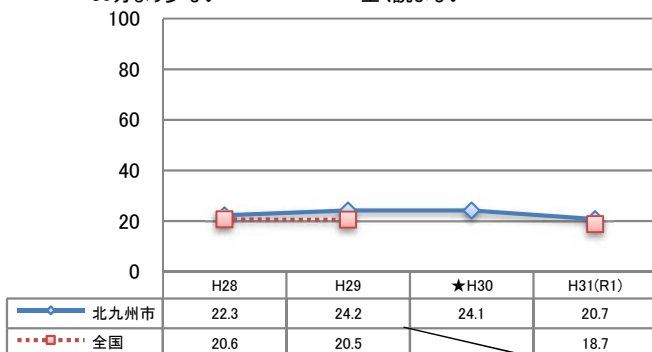
「読書は好きですか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに同程度である。

質問番号 小・中19 【学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか】※この項目は、数値が少ないほうが良い。

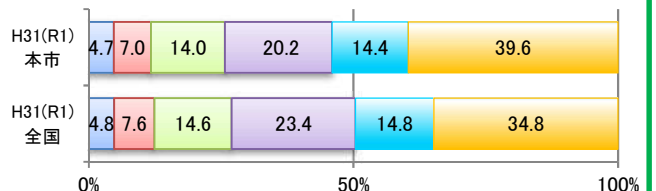
【小学校】



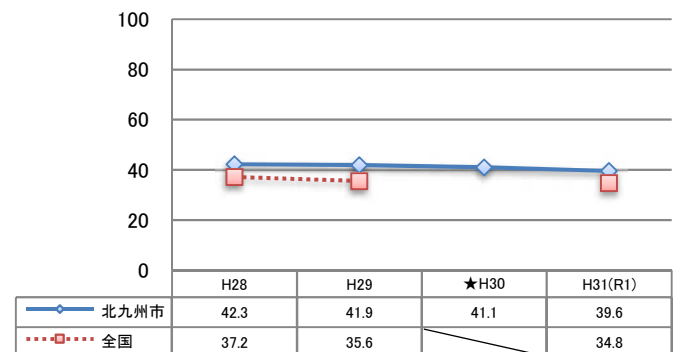
■ 3時間以上 ■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 30分以上、1時間より少ない
■ 30分より少ない ■ 全く読まない



【中学校】



■ 3時間以上 ■ 2時間以上、3時間より少ない
■ 1時間以上、2時間より少ない ■ 30分以上、1時間より少ない
■ 30分より少ない ■ 全く読まない



「学校の授業時間以外に、普段(月曜日～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」について、「全く読まない。」と回答をした割合は、小学校では全国平均と同程度であるが、中学校は全国平均を若干下回っている。昨年度の本市平均と比べると、小学校は若干下回り、中学校は同程度である。

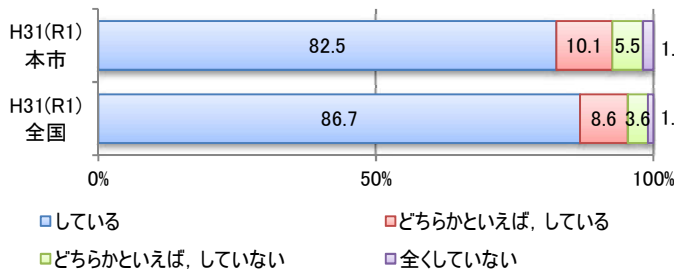
(2) 学習状況調査結果の経年推移 ② 心の育ち

【生活習慣について】

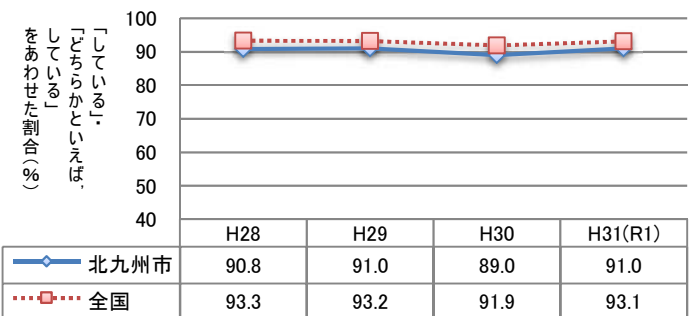
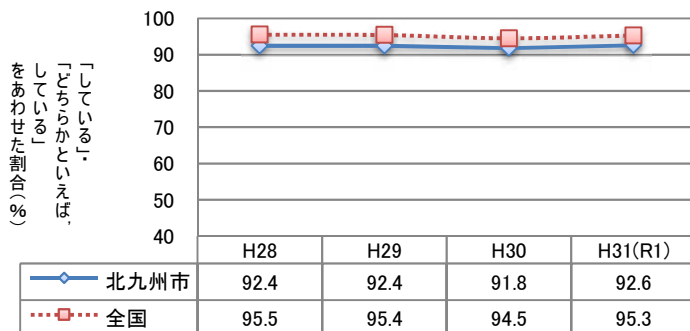
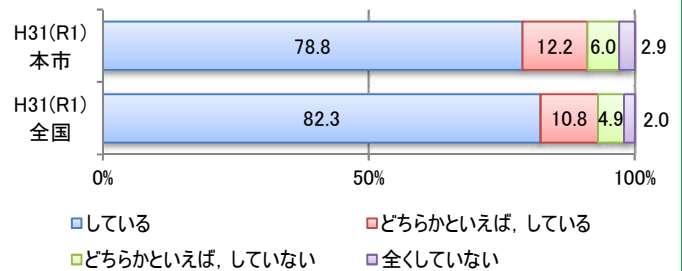
児童生徒質問紙から、「心の育ち」に関係の深いデータを示しています。(無回答, その他を除く。)

質問番号 小・中 1【朝食を毎日食べていますか】

【小学校】



【中学校】

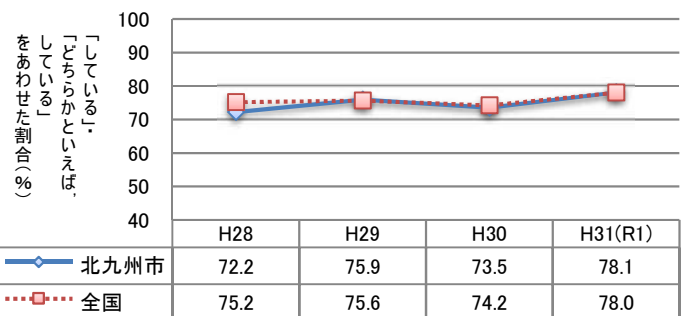
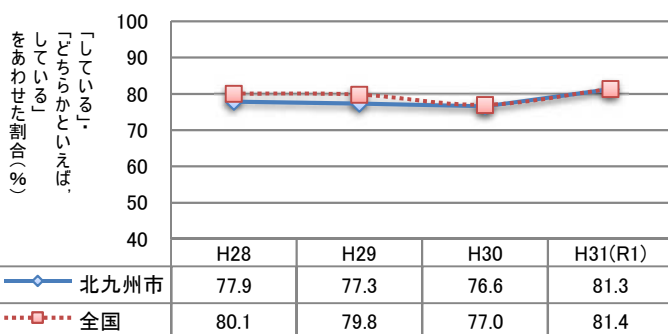
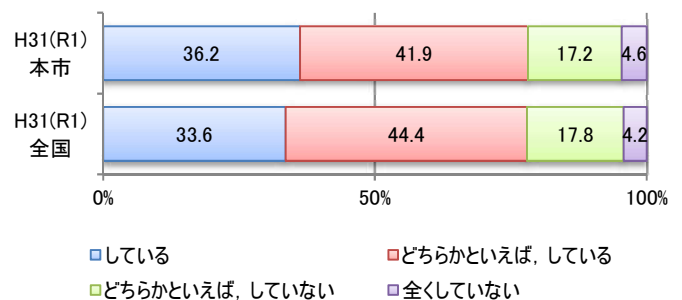
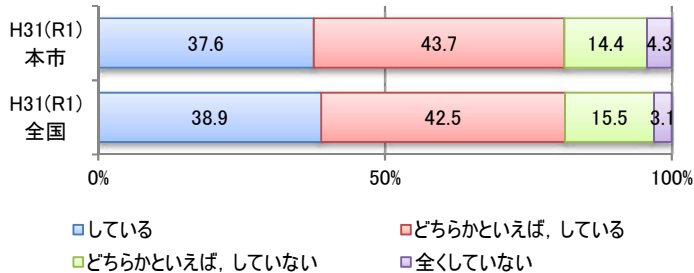


「朝食を毎日食べていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに同程度である。

質問番号 小・中 2【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】

【中学校】

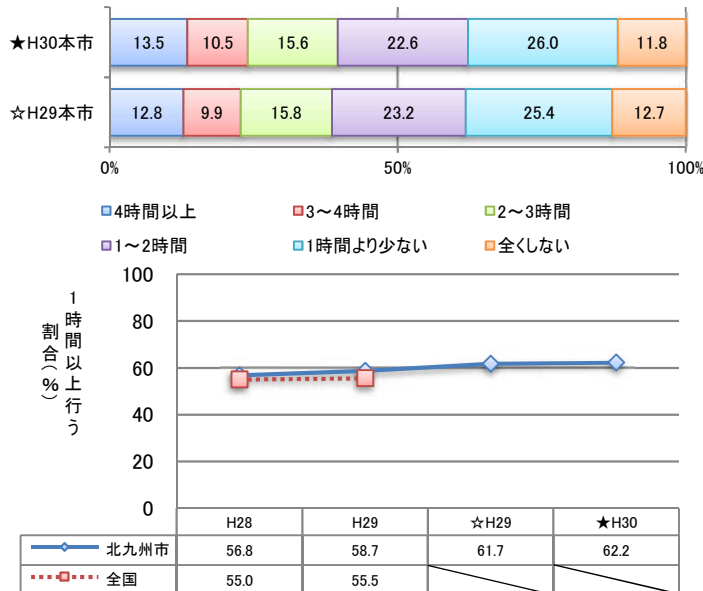
【小学校】



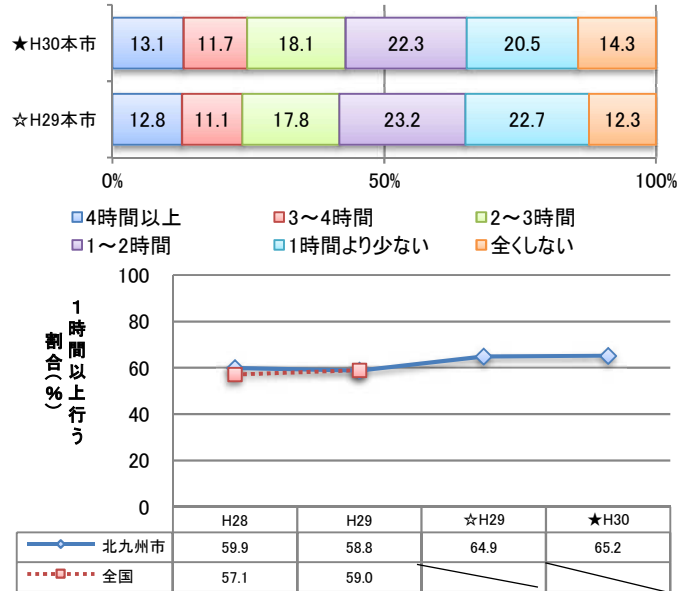
「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに若干上回っている。

★H30北九学調 小5・中2(9) 【普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか】 ※ この項目は, 数値が少ないほうがよい。

【小学校】



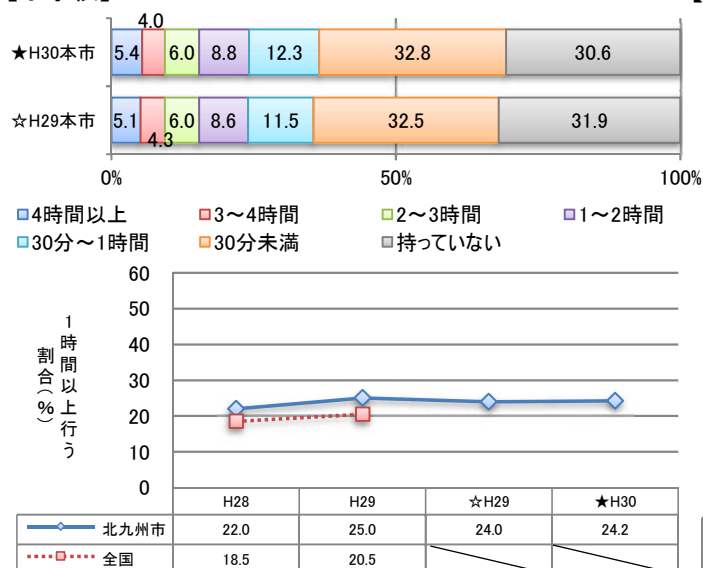
【中学校】



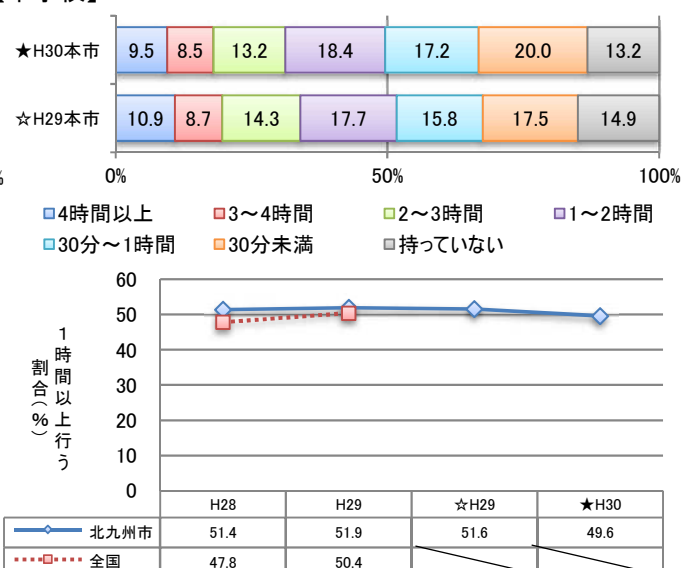
「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」について, 「1時間以上行う」と回答した割合は, 小・中学校ともに平成29年度の全国平均を上回っている。昨年度の本市平均と比べると, 小・中学校ともに同程度である。

★H30北九学調 小5・中2(10) 【普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)】 ※ この項目は, 数値が少ないほうがよい。

【小学校】



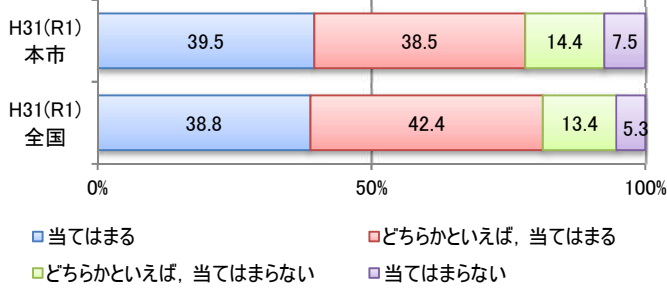
【中学校】



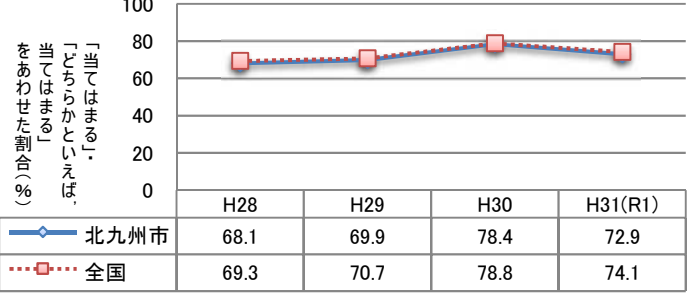
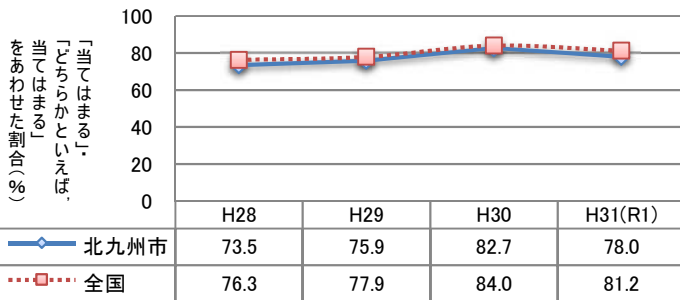
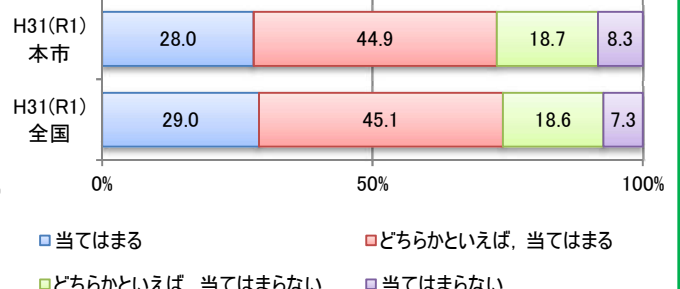
「普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしますか(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く)」について, 「1時間以上行う」と回答した割合は, 小学校では平成29年度の全国平均を若干上回っている。中学校では, 全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると, 小・中学校ともに同程度である。

質問番号 小・中 5 【自分には、よいところがあると思いますか】

【小学校】



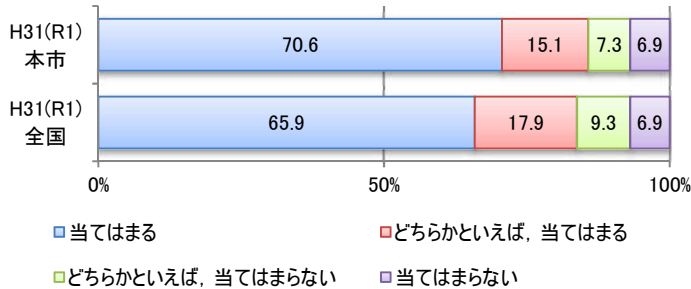
【中学校】



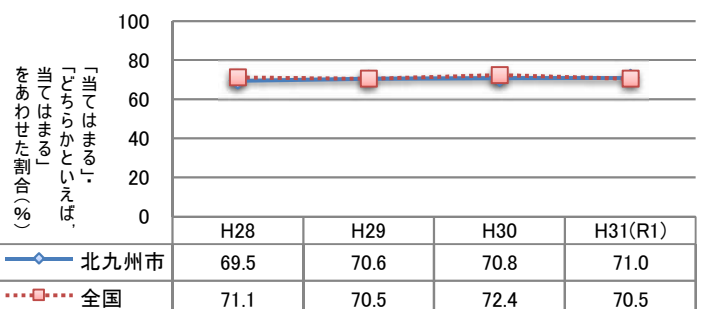
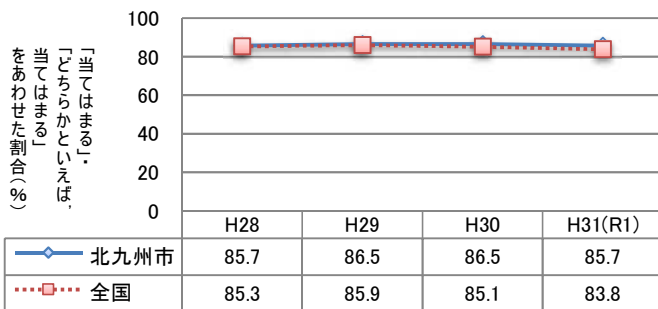
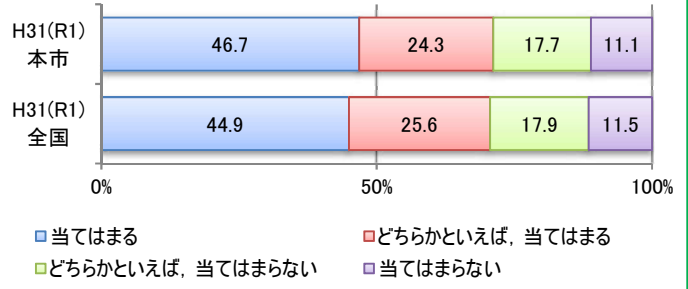
「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均を若干下回っているが、中学校では全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小学校では若干下回っており、中学校では下回っている。

質問番号 小・中 8 【将来の夢や目標を持っていますか】

【小学校】



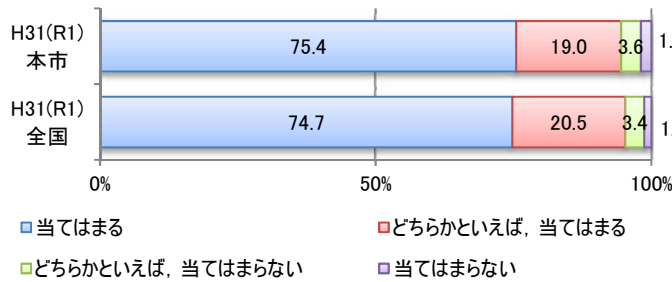
【中学校】



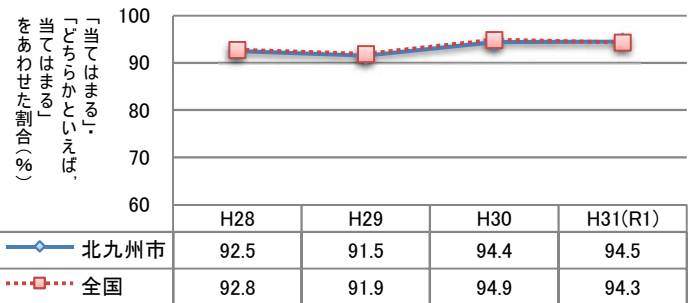
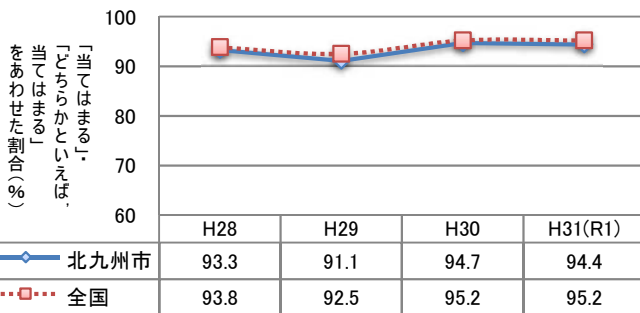
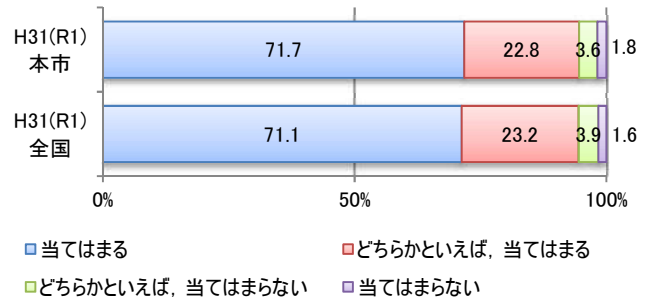
「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答した割合は、小・中学校ともに、全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに同程度である。

質問番号 小・中16 【人の役に立つ人間になりたいと思いますか】

【小学校】



【中学校】

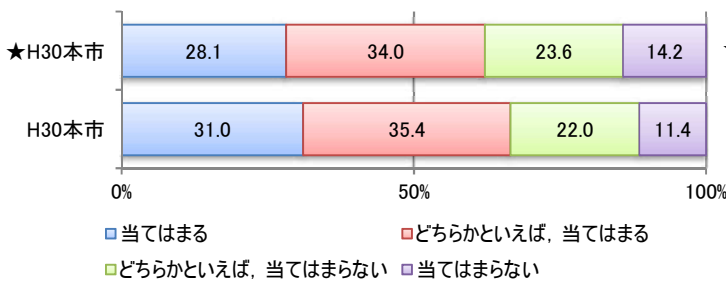


「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに同程度である。

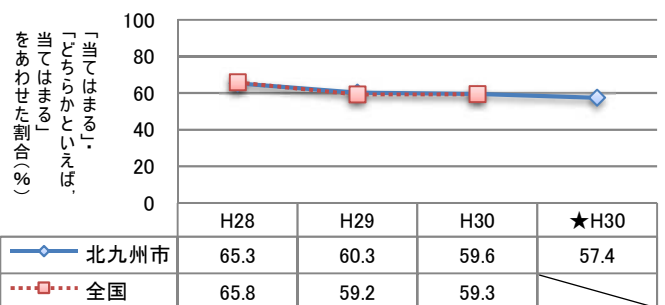
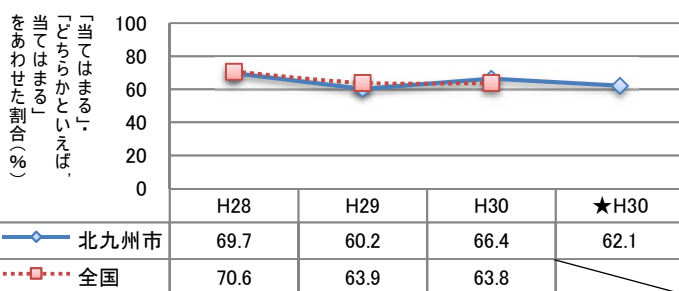
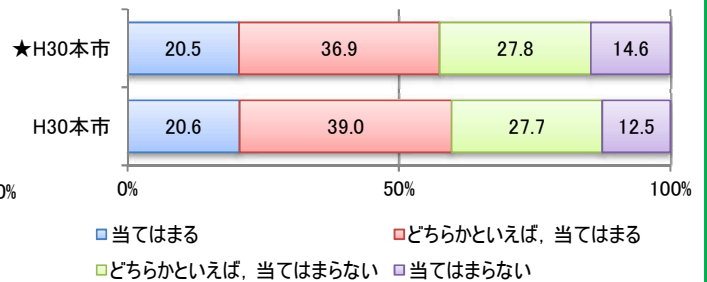
【地域や社会への関心について】

★H30北九学調 小(30)・中(30) 【地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか】

【小学校】



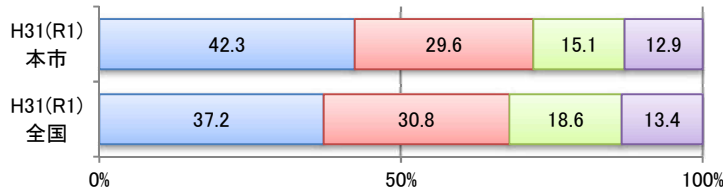
【中学校】



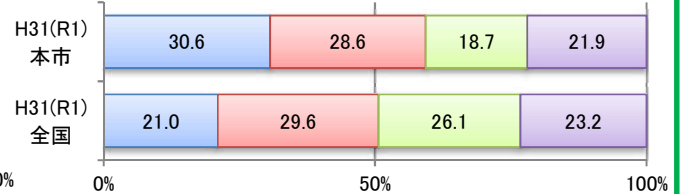
「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」について、肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに平成30年度の全国平均と同程度である。昨年度の本市平均と比べると、小学校は若干下回り、中学校では同程度である。

質問番号 小・中23 【今住んでいる地域の行事に参加していますか】

【小学校】

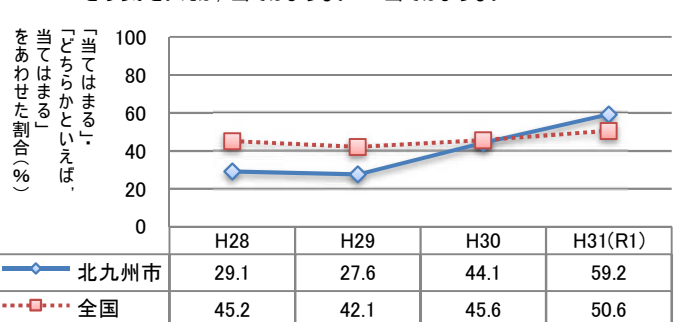
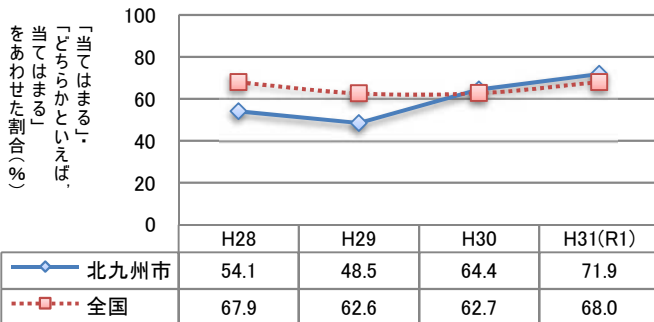


【中学校】



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない



「今住んでいる地域の行事に参加していますか」について、肯定的な回答をした割合は、小学校では全国平均を若干上回り、中学校では上回っている。昨年度の本市平均と比べると、小・中学校ともに上回っている。



(3) 学力・体力向上アクションプラン第1ステージの成果と第2ステージにおける方向性

【柱1】

全校体制でのPDCAサイクルの確立

＜成果＞ スクールプランの作成・実施・検証・改善

- ・スクールプランを基に「学力・体力・心の育ち」の面から、学校等の取組の状況を把握しマネジメントへの助言や支援を行うことで、各校でPDCAサイクルを意識した取組が推進されるようになってきている。
- ・「北九州市学力状況調査」「全国学力・学習状況調査」を実施し、継続的に児童生徒の学力の実態を把握し、授業改善に生かすサイクルが確立されてきている。

＜今後の方向性＞ 管理職・ミドルリーダーによる学校マネジメント

- ・本市人材育成基本方針に基づいた効果的なOJTの推進
- ・児童生徒・保護者等のアンケートの分析結果から、指導に生かす方法の確立

＜第2ステージの基本理念＞

- 学校の実情に応じて、校・園長が主体的に学校マネジメントを展開する。
- 学校の主体的な取組を、教育委員会が全力で支援する。

【柱2】

指導力向上のための 日々の継続的な取組

＜成果＞

授業改善への意識の向上

- ・コアスクール、アクティブ・ラーニング校、リーディングスクール等の公開授業や研修を通して、「『わかる授業』づくりの5つのポイント」を意識した授業づくりが進んでいる。
- ・学力・体力向上推進教員が各校の授業を参観し、教員の実態に応じた具体的な助言が行われ授業力向上につなげている。
- ・「kitaQせんせいチャンネル」により最先端の教育情報や本市の教員の優れた実績の共有化が図られ、効果的・効率的なOJTが可能になってきている。
- ・単元末テスト等、定期考査の改善による授業改善の意識の向上と児童生徒の思考力等の育成が見られた。

＜今後の方向性＞

教員の指導力向上に向けた具体的な支援

- ・「『わかる授業』づくり5つのポイント」の質の向上
- ・ICT環境の着実な整備と教員の指導力の向上
- ・SDGsを中心としたシビック・プライドの醸成
- ・教職員の働き方改革が進展する中、より一層の効率化・合理化のための研修等の精査

【柱3】

小中9年間を見通した、 児童生徒一人一人への きめ細かな教育体制の確立

＜成果＞

学力定着のための組織的・効率的な取組

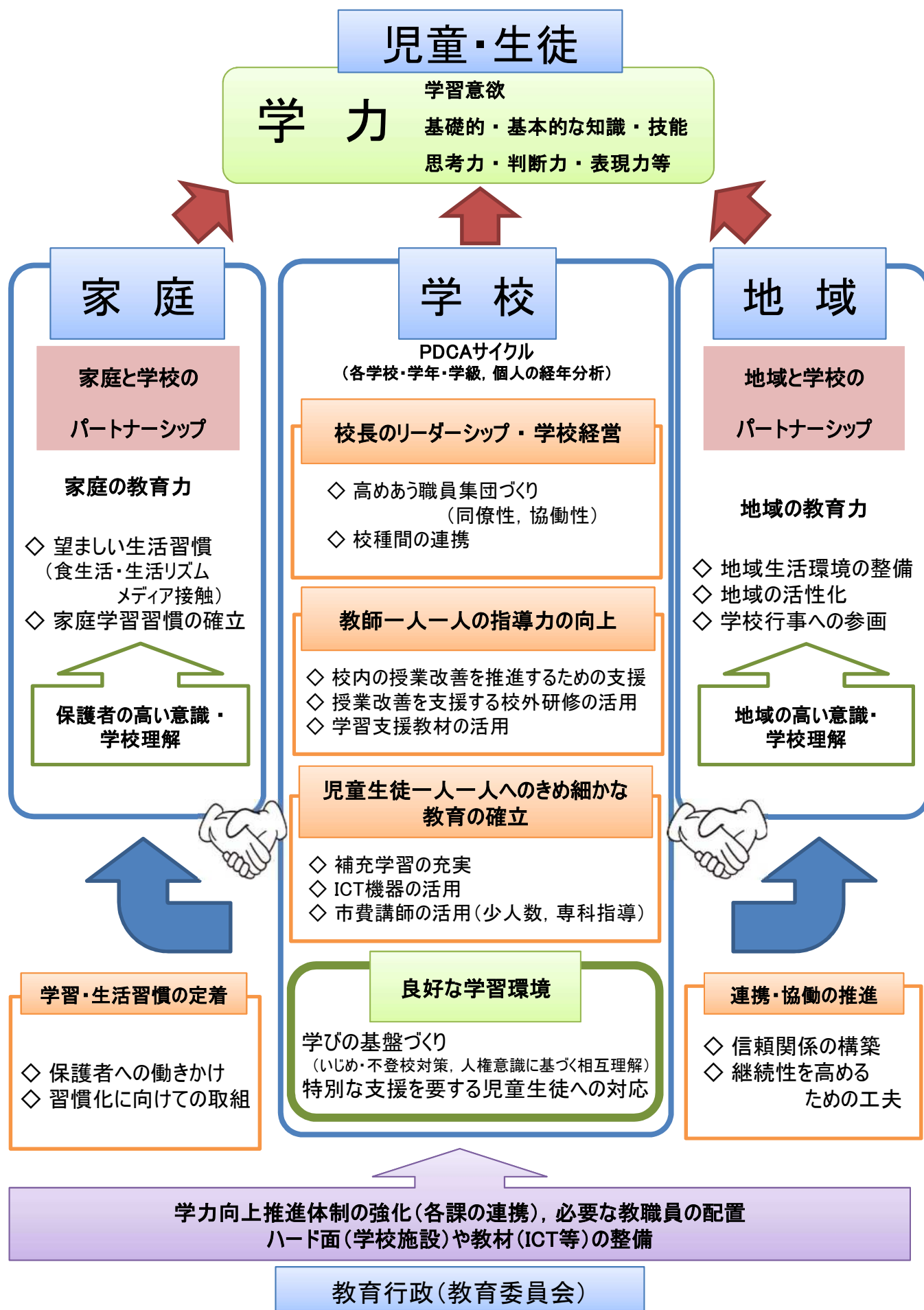
- ・学力定着サポートシステムを多くの学校が取り入れ、学力定着に向けた取組が進められている。
- ・ひまわり学習塾を活用した学校独自の補充学習システムを構築し、学力の向上に成果を上げている。

＜今後の方向性＞

小中9年間を見通したきめ細かな教育体制の確立

- ・学力定着サポートシステムを効果的に活用しながら、全校体制で補充学習を実施できるように、「補充学習サイクル」の構築に向けた支援の充実
- ・ひまわり学習塾を学校の補充学習に効果的に位置付け、中学校とひまわり学習塾との連携をより一層図り、効果的で質の高い補充学習の実現
- ・学校と家庭が一体となり、児童生徒自らが計画的に家庭学習に取り組む学習習慣の形成

(4) 学力に影響を与える要因(資料)







平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査 報告書

発行

北九州市教育委員会

学力・体力向上推進室

〒803-8510

北九州市小倉北区大手町1番1号

TEL 093-582-3445

FAX 093-581-5873